小 平 市 教 育 委 員 会 議 事 録

――８ 月 臨 時 会――

令和２年８月１３日（木）

令和２年８月　教育委員会臨時会

開　催　日　時　令和２年８月１３日（木）　午後１時００分～午後６時２２分
開　催　場　所　大会議室
出　席　委　員　古川正之　教育長
森井良子　教育長職務代理者
三町章　委員
山口有紀子　委員
丸山憲子　委員
説明のための出席者　川上吉晴　教育部長
国冨尊　教育指導担当部長兼指導課長
安部幸一郎　地域学習担当部長
市川裕之　教育総務課長
中村和哉　教育施策推進担当課長
岡村由美子　指導課長補佐
小影俊一　指導主事
松田弦　指導主事
豊田剛志　指導主事
書　記　山本真由美　教育総務課長補佐、塚本真也　教育総務課主任
傍　聴　者　２０名

午後１時３０分　開会

（開会宣言）

○古川教育長

ただいまから教育委員会８月臨時会を開会いたします。

傍聴者の方にお伝えいたします。入口でお渡しいたしました傍聴券の裏面に注意事項が記してありますので、ご了解の上、傍聴中は静粛にしていただき、円滑な会議の進行にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、初めに、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員は、山口委員、及び私、古川でございます。

それでは、協議事項を行います。

協議事項「令和３年度から令和６年度使用中学校教科用図書について」を議題といたします。

初めに、本年度の中学校教科用図書の採択について、これまでの経緯の説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

中学校教科用図書の採択について、これまでの経緯をご報告いたします。

本年４月１６日の教育委員会定例会におきまして、令和３年度使用中学校教科用図書採択方針、令和２年度小平市立中学校教科用図書採択要領及び同細則を定め、これに基づきまして、５月１１日に学識経験者、保護者代表、中学校長、副校長で構成される小平市立中学校教科用図書審議委員会及び同審議委員会の下部組織であります教科用図書調査部会を設置し、委員の委嘱をいたしました。

調査部会では、全ての検定済み教科書について、教科、種目、発行者ごとに専門的な調査研究を行い、調査資料をまとめ、審議委員会に提出いたしました。また、６月１日から７月１日までの間、市役所５階におきまして、教科書の見本本を提示し、併せて市民の方々を対象としたアンケートを実施し、ご意見等を寄せていただきました。各中学校におきましても、各教科書の調査研究を行い、その結果を報告書としてまとめ、審議委員会に提出いたしました。審議委員会は、これらの資料をもとに検討を重ね、小平市立中学校教科用図書の審議委員会報告書を７月２２日の教育委員会に提出いたしました。

教育委員の皆様には、７月２２日に提出された審議委員会からの報告書のほか、調査部会における調査報告、各学校における調査研究報告、各教科書発行者の編修趣意書、東京都教育委員会が作成した調査研究資料、市役所で実施したアンケートの写しも併せてご参照いただき、ご協議いただきたいと存じます。

○古川教育長

今年度採択する中学校教科用図書につきましては、１０教科、１６種目でございます。

協議の手順といたしましては、本日は、種目ごとに、国語、書写、社会の地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図、数学、理科、音楽の一般、器楽合奏、美術、保健体育、技術・家庭の技術分野、家庭分野、英語、道徳の順に委員の皆様からご意見をいただき、採択を決定する議案に載せる教科用図書の候補を２者から３者程度に選定いたします。８月２０日の教育委員会定例会では、さらに候補を１者に絞り込み、協議終了後に議案を作成し、審議する予定でございます。

それでは、中学校教科用図書の見本本も用意されておりますので、適宜ご参照いただき、また、既に７月定例会で報告をいただいております審議委員会の報告書などについても参考にご協議願います。

進行状況にもよりますが、協議する内容が非常に多いため、音楽の協議に移る前あたりで、１回休憩を取りたいと存じます。なお、平成２９年３月に学習指導要領が告示されました。それに伴い、教科用図書の内容が変更になっておりますので、教科ごとの協議に入る前に、学習指導要領の改訂ポイントについて、事務局より説明していただきます。

それでは、初めに、国語について事務局から説明願います。

○国冨教育指導担当部長

それでは、ご協議いただきます教科用図書が編集される上での基準である、平成２９年に文部科学省から告示され、令和３年度から全面実施となります中学校学習指導要領のポイントについて報告をいたします。

今回の中学校学習指導要領改訂の基本方針は、小学校と同様に、育成を目指す資質・能力が明確化されたことです。背景としては、これからの予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来をつくっていくのか、どのように社会と人生をより良いものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、より良い社会と幸福な人生のつくり手となる生きる力を身につけられるようにすることが示されています。

生きる力は、これまでの学校教育で育成を目指してきておりますが、平成２９年改訂では、この生きる力をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づいて再整備をされました。

それでは、国語及び書写について説明をいたします。

国語科は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することが目標に示されています。

育成を目指す資質・能力に基づいた国語科の目標は、知識及び技能については、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができるようにすること。

思考力、判断力、表現力等については、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うこと。

学びに向かう力については、言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養うことでございます。

次に、書写につきましては、国語の目標に基づき、文字を読みやすく、早く書くことに加えて、目的や必要に応じて行書や楷書を選んで書くこと、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことを重視していることでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、国語の協議に入ります。国語につきましては、発行者４者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい国語」、三省堂が「現代の国語」、教育出版が「伝え合う言葉中学国語」、光村図書出版が「国語」となっております。

それでは、皆様、ご意見を伺いたいと思います。

どなたかご発言をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

ただいまご説明も伺いましたが、学習指導要領の中で、国語科で育成を目指す資質・能力を

「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、このような資質・能力を育成するためには生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示しています。

また、全国学力・学習状況調査等の結果から、中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得て、それらを比較したり、関連づけたりすること、文章を読んで、根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっています。

まず、４者の教科書を手に取ってみました。

見た目どおり、ずっしりと重量感があるのは東京書籍と教育出版で、東京書籍は審議委員会の調査報告によると、全体的に分量、情報量ともにやや多いとのことでした。

教育出版においては、読書教材がまとめられていないので、全体を見通し、計画的に指導しないと消化できないとの報告がありました。

以上を踏まえ、私は光村図書と三省堂が良いのではないかと感じました。

光村図書では、導入の部分で、「この教科書で学習する皆さんへ」として、効果的に学習するための手引きと学習の見通しを持とうでは、１年間で行う学習と身につく力について分かりやすく記載されていること。また、巻末の「学習を広げる」が理解を深めるための資料として大変充実していることや、書く、話す、聞くの指導に役立つ内容が示されていること。また、各単元で学ぶポイントを示す「学習の窓」を巻末に一覧にしたことで説明的な文章を読むための基本的な観点がまとめられていること。そして、単元の題材から、「広がる図書」や「続きはこちら」など、読書に結びつけようとする工夫があります。

小平市では、小・中連携教育の取組の中で、児童・生徒の読書活動を継続して推進しているところですので、本の世界を広げようとする「読書案内」が各学年にあり、積極的に読書を勧めてくれることは大変ありがたいと思いました。また、ＱＲコードにより本文に関する写真や画像を見ることもできました。

三省堂は、「領域別教材一覧」や「確かな言葉の力をつけるために」という教科書の使い方のページが生徒の１年間の学習の理解を深める助けとなると思います。「私の本棚」や「小さな図書館」で読書を推進しています。

また、審議委員会の調査報告の総合的な所見の中に、読むことについての言語技術を明確に示し、３年間それぞれの教材を通して獲得する技能を「２２の方略」として揚げている点に工夫があるとのことでした。文章を正確に読み解き、深く味わうための２２種類の技やコツを３年間で学ぼうとするものです。

また、巻末の資料編が充実しており、学習用語辞典や、情報活用の仕方や、社会生活への生かし方などは、生徒にとって学習の理解を深めるために有効だと感じましたが、資料編の中に「古典芸能に親しむ」という項目が入っていることに多少の違和感がありました。

２者の１学年の教科書は、図らずも谷川俊太郎の「朝のリレー」から始まっていますが、両者

ともに教材としてヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」や太宰治の「走れメロス」、島崎藤村の「初恋」など、これまでも、そしてこれからも中学生に触れてほしい作品が残っていることも、学んでほしい教科書であると感じました。以上の理由により、光村図書と三省堂を候補としたいと思います。

○丸山委員

私も、森井委員と同様に、光村図書、三省堂を挙げました。さらに教育出版も挙げたのですけれども、その３者は、文章の初めに学習の目標、または文末に学習方法がついて、構成的に分かりやすいです。中でも教育出版は、視覚的には多色を使っていないということもあってシンプルに感じます。光村図書や三省堂のように、もう少し色彩やイラストがあったほうがいいと思いました。光村図書、三省堂に関しては、文末に関係書籍の紹介もあって、読書の興味が広がりそうですし、何よりも光村図書の場合はＱＲコードが掲載されていて、ここでは作者のインタビュー動画を見ることができたりして、文章理解の上では参考になって、実際に作者の生の声を聞くということは、本に親しむ、または本を読んでみたいというきっかけにつながるのではないかという意味で有益であると思います。この三省堂、光村図書に関しては、資料編もとても充実しているので、いろいろと知識を増やすという意味でも有益かと思いました。

○三町委員

私は、教科書としての作りといいますか、学習活動が子どもにとって主体的な学びになるか、また、先生方が教科書を見たり使ったりすることよって、良い指導法が見つかる方が大事だと思いますので、項目ごとにポイントをつけました。

例えば、主体的な学びについて、冒頭の扱いで全体的な見通しがつけやすいのはどれなのか。各単元でも、目標設定や内容についての学習目標、学習が終わった後の学習の進め方などを見ました。それから、巻末の充実度などを見ました。

国語については、音声に関わることなので、ＱＲコードを見てみました。感じたのは、光村図書が、各章の流れについて分かりやすいということと、資料が充実しています。これは三省堂も同じです。

それから、ＱＲコードについては、光村図書が使いやすいと思いました。

内容的には、教育出版の「まなびリンク教室」。それから、東京書籍もいいですが、そのままでは中身が見えにくいと感じました。

音声で平家物語や竹取物語を聞いた印象だと、狙いが古典のリズムに沿ってということでいうと、光村図書は明確に伝える視点になっていると思いました。私の場合はこうしてポイントをつけていきました。ポイントは光村図書が一番高くて、その半分ぐらいで三省堂というような感じでしたので、私は、光村図書一つで考えました。

○山口委員

私も、光村図書一つです。説明がかぶるところは割愛しますが、デジタルコンテンツにアクセスできるところ、今後、授業がデジタル化していきますので、教員にとっても導入の手助けになると思っていますし、生徒も自主学習、家庭学習に活用できると思いました。

文学作品を深く味わう、言語文化を理解するということですので、文章から正しく読み取る読書活動につなげるような、国語本来の目的を考えると、内容的には光村図書か、三省堂と思ったのですが、デジタルコンテンツが充実しているということで、光村図書を挙げています。

一方、情報量が光村図書はすごく多くて、紙面が決してこの４者の中で見やすいとは、私は感じませんでした。

教科書に掲載されていること全てを授業時間内でさらうというのは、授業の本来の目的ではありません。現在も、小平市では、光村図書の教科書を使用しています。もし、光村図書になった場合は、先生方にはこれまでのご経験、ノウハウを生かしていただいて、扱う内容を主体的に精選してもらうのがいいかと思います。

特に、今後は感染症対策などで授業時間が減ることも考えられますので、自宅学習などで対応していくような形も少し想定していけるといいと思います。

教育出版も、内容が、環境問題、情報リテラシー、科学技術、人権問題など、今日的な話題を扱う単元が多くて、子どもたちにとっては興味を持って読める文章が多いと思いました。紙面も一番すっきりして見やすいと思いました。ただ、一部、調査部会の方から、指導しづらい、指導に工夫を要する配列であるという指摘がございましたので、ここはマイナスポイントだと考えて、私も光村図書１者を推薦します。

○古川教育長

ありがとうございます。

私の方から、発行者４者について、教科用図書審議委員会から、全ての教科書が学習指導要領に基づき、正確かつ公正であるとの報告がありました。また、内容や構成上の工夫についても、それぞれの発行者の良い点や工夫をしている点についても報告がありました。

私は、特に学習指導要領に示されている言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指すとの目標に活用しやすいものという観点で検討いたしました。

その結果、光村図書の国語が良いと思いました。物語文、説明文、詩が適切に配置されており、興味・関心を持って学習に取り組むことができるように工夫してあります。

巻頭には、「この教科書で学習する皆さんへ」というコーナーがあり、効果的に学習を進めるために活用できるようになっています。そこには「脳トレ」が示されていて、とても参考になると思いました。

教材には有名な作家の書き下ろし文も掲載されていて、新鮮な感じを受けました。特に１年の教科書には、４者とも竹取物語が扱われていますが、光村図書は古文に対して親しみやすくなるような工夫を一番していると思いました。

光村図書を推薦いたします。

委員の皆さん方のお話を聞くと、教育出版が一人、光村図書は５人の方が全て重なっています。

○森井教育長職務代理者

皆さん方のご意見を伺って、私も光村図書が一番に良いのではないかと思い、また、三省堂はその次に良いという思いでしたので、私も含めて５名が光村図書を一番に良いと思っているのであれば、三省堂を候補に残さなくても結構です。

○丸山委員

私も、デジタルコンテンツの面では光村図書が一番だと思いますので、光村図書を挙げさせていただきます。

○古川教育長

それでは、５人の委員の皆さんのご意見が一致いたしましたので、国語の議案候補は、発行者名、光村図書出版、図書名「国語」が妥当だと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

それでは、そのように決定させていただきます。

次に、国語の書写の協議に入ります。書写につきましては、発行者４者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい書写」、三省堂が「現代の書写」、教育出版が「中学書写」、光村図書出版が「中学書写」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。

どなたかご発言をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

書写の教科書は４者から見本本が提出されておりますが、それぞれ見せていただきました。

教育出版の教科書は、基礎基本となるスキルの習得ができるよう、試し書きを導入に実施するという工夫があり、とても有効な活動であるとの報告や、市民アンケートからも高評価のご意見をいただいております。

また、東京書籍の教科書は、審議委員会の調査報告では、学校行事や学級等の取組と関連した学習が多く設定されており、学んだことを実際に生かすことができるように工夫されているとのことです。

三省堂の教科書は、書く部分においての基礎基本の着実な習得が量的にも充実しており、視覚的な資料が工夫されている。また、「社会生活に生きる書写」との観点から、自分の文字をより

良いものにしていこうという趣旨に基づいた構成になっているとのことです。

光村図書は目標を持って学習が進められるような工夫が教材ごとにあり、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の三つの学習プロセスにより、学習の進め方が示されています。「学習の窓」では、書くことに重点を置いた指導ができます。

また、「書写ブック」により、硬筆も毛筆の学習と対応していることから、書写の基礎基本の確実な習得につながる工夫もあり、ＱＲコードにより、道具の準備や片づけ、姿勢や筆遣いや学習する文字の書き方などの資料が充実しているのも特徴です。

このように、４者４様の良さがありますが、生徒の授業での使い勝手という点から、大きなサイズの教科書は、お手本として机上に置くのには適していないと考えます。

お手本として机上に置くのに適切な大きさであるのは、三省堂と光村図書になります。

両者はお手本の字は楷書、行書とも、美しく、書くことを日常生活に生かせるような構成になっている点や常用漢字表に楷書体と行書体があり、活用しやすい点も同様であることから、三省堂と光村図書を候補としたいと思います。

○三町委員

私は、東京都の調査の内容を見て、あまり差を感じませんでした。

中身についても、お手本というよりは、何かいろいろな情報という感じが強かったです。市民アンケートでは、教育出版では香典の書き方で、字を薄めることも書いてあり、東京書籍では、職場訪問のときの依頼文、入学願書の書き方とか、基本であって必要なことは入っているので、あまり差がありませんでした。

特に行書の書き方について調査報告書の中で、東京書籍は情報量が多いというようなことが書いてありましたが、私は三省堂と教育出版は情報量が少ないという気がしました。これは、東京書籍、光村図書が良いと思いました。

それから、単元の構成について、学習の進め方としては、東京書籍、教育出版、光村図書が良いと思いました。

ＱＲコードを調べてみましたが、東京書籍は、実際に書くことについて、二方向から撮影して筆の運びもよく見えているということでいいのですが、私は書写で姿勢にこだわっているので、それをどう指導しているのかというと、東京書籍にはありませんでした。

それに対して、光村図書は姿勢のこともあり、それから筆についてもあります。ただ、筆の運びは一方向からでした。練習上の問題というか、印刷上の問題なのか、東京書籍はＤマークという形で、その場では何を書いているのか分かりませんが、光村図書はその場で内容が分かるということで、使いやすさ、それから学びやすさがあると感じました。私は光村図書が一番、そして二番目は東京書籍です。

○丸山委員

書写で大切なことは、手で書くことというのが基本ですけれども、まず、道具の正しい使い方

であるとか、筆遣い、字の形、筆順がまさに書写の基本というのを確実に習得して、それを日常生活において生かしていくということが大切であるというのが前提です。

そういう意味では、この４者とも工夫されています。お二方とは少し意見がずれてしまいますが、教育出版が、筆遣い、筆の重心というのが、色分けで一目瞭然で分かるので、見やすいと思いました。

また、書道というのは古典こそお手本であって、歴史の中でこの文字文化というのは培われてきたという事実があります。そうした意味では、教育出版は、コラム欄をはじめ、多くの古典を取り入れています。ほかの教科書では、掲載されている写真に関しては、所蔵者の名前とかが明記されていません。教育出版においては、所蔵、また所蔵者の都道府県まで記されていて、これは著作権という面ではどこのもの、誰のものというのは基本ですので、そういうのがきちんと記されているというのが重要視されるべきだと思います。

また、身の回りの文字文化についての項でも、例えば全国のお城の名前が掘られた石碑が写真で４７都道府県、全て掲載されていて、丁寧に教科書作成がなされているとうかがうことができます。

単なる文字を学ぶだけではなくて、その文字を媒体にして、例えば歴史であるとか、文学であるとか、建築デザインというのに興味が広がる可能性を、構成から感じます。

したがって、私は教育出版を挙げたいと思います。

○山口委員

皆さんのお話にあるように、４者とも長所がありましたが、私は三省堂と光村図書を挙げさせていただきます。

三省堂は、教科書の最初に、自分の文字をよりよくして生活の中で生かせるようにと、明確に書いてあります。小学校の姿勢を正して文字を書くことに集中するということから、中学校の学習が、社会生活に生きる書写の力を学ぶことと明示しています。

教科書内に硬筆で書き込める部分が多く、「毛筆で学んだことを硬筆に生かそう」「学習したことを生かして行書で書こう」など、全体的に意図や目的が明確で子どもたちが学習しやすいと思いました。

三省堂はデジタルコンテンツがありまして、例えば基礎編を読み込むと、毛筆の姿勢、構え方、筆の持ち方など細かく出ております。様々な動画が一覧で出てくるので、若干、使いにくさはありますが、総合的に三省堂が一番だと思っております。

二番目に光村図書を挙げさせていただきます。こちらもデジタルコンテンツが充実している点は良いと思います。お手本の下、それぞれにＱＲコードがあり、書いているところが見られますので、授業に活用しやすいと思います。

また、読みやすく書くための楷書、読みやすく早く書くための行書、文字を使い分けるなど、こちらも全体の構成がすっきりしています。また、巻末の常用漢字表を含め、資料全体も見やすいので、一番が三省堂、二番が光村図書で挙げさせていただきます。

〇古川教育長

発行者４者について、教科用図書審議委員会より、それぞれの教科書が学習指導要領に基づき、正確かつ公正であるとの報告がありました。その中で、光村図書の「中学書写」が良いと思います。

教科書をなぞる活動が充実しており、教科書だけで学習できるように工夫されています。また、分冊として、とじ込みとなっている書写ブックは、教科書と対応しながら自学でも学習することができるようになっています。

また、コラムが楽しく、二次元コードにより動画も見られることに興味が持てました。習字の各ページに二次元コードがついており、書き方を動画で見ながら練習することができるようになっています。サイズも、机上にお手本として置くには適切だと思いました。

次に、教育出版の「中学書写」が良いと思いました。

学年ごとの区切りがしっかりしていて、どの学年で何を学ぶのか、よく分かるようになっています。１年で最初に学習する内容がノートの書き方の確認というのも良いと感じました。カラーページや写真が多く、とても興味を引くように工夫されてます。ただ、手本として使う場合は横幅が広いのが気になりました。

〇三町委員

私のポイントで言うと、光村図書が一番で、僅差で東京書籍でした。

山口委員のＱＲコードの内容というのは参考になりました。

光村図書が一番です。

〇古川教育長

３者でよろしいでしょうか。

〇森井教育長職務代理者

私は、見本本の提出の順番に、三省堂、光村図書と言ったのですが、光村図書が一番、三省堂が二番目です。山口委員は三省堂が一番ということもありますので、一番いいと思うものがそれぞれ違うのであれば、３者とも残すべきではないかと感じました。

〇古川教育長

今のご意見を伺って、３者をそのまま候補に残すということで、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

〇古川教育長

それでは、確認いたします。書写については、発行者名、三省堂、図書名が「現代の書写」、それから、発行者が教育出版、図書名「中学書写」、発行者名、光村図書出版、図書名「中学書写」、この３者が妥当だと存じますが、いかがでしょうか

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に、社会に移ります。社会について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

社会科につきましては、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することが目標に示されています。

育成を目指す資質・能力に基づいた社会科の目標は、知識及び技能については、我が国の国土と歴史、現代の政治経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身につけられるようにすること。

思考力、判断力、表現力等については、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて、選択、判断したりする力、思考判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うこと。

学びに向かう力については、社会的事象について、より良い社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養うこととともに、多面的、多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民としての自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚などを深めることでございます。

地図につきましては、社会科の目標に基づき、地図を効果的に活用し、国土に対する地理的理解や、世界の諸地域と社会生活への理解を深めることを重視していることでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、まず、社会の地理的分野の協議に入ります。

地理的分野につきましては、発行者４者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会　地理」、教育出版が「中学社会　地理　地域にまなぶ」、帝国書院が「社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土」、日本文教出版が「中学社会　地理的分野」となっております。

それでは、皆様、ご意見を伺いたいと思います。

どなたかご発言をお願いいたします。

〇山口委員

社会科全般に関して言えることで、教科書内の文字量、資料の量が非常に多く、教科書自体が重いと思いました。幾つかの教科書はＱＲコードによる情報提供を行ってはいるものの、全体として内容が充実していないのが残念だと思っております。

社会科学習全体として、海外の様子や政治的な難しい仕組み、また、同時並行的な学習の流れなどは、これまでは文章で詳細に解説していくしかありませんでした。しかし、これらの内容は、実は映像資料を見たら一目瞭然なものもあります。

今後、社会科科目の教科書作成に関しては、デジタルコンテンツをより充実していっていただけることを希望しますし、先生方においても、授業では積極的に映像資料など、生徒たちがより明確に社会の事象を理解できるような授業づくりを工夫してもらえたらと思いました。

４者全て見せていただいて、私が候補に挙げるのは日本文教出版です。

こちらは紙面が大変見やすいです。中に、「あなたの意見はどのように調べるか検討しましょう」「調べた内容はどのようにまとめればいいでしょうか」など、子どもたちが主体的に考えることを促す発問が多いです。

最初のページの方では、ページの下に、「小学校で学習したこういうところを振り返ってみましょう」という記述が数か所あり、小学校から中学地理学習への関連づけがされています。

教育出版、東京書籍も、私は紙面が見やすいと思ったのですが、先生方から地理的な見方・考え方についての説明の解説が示されていない、割合が少ないなどと報告が出ております。

資料としては興味深く、工夫が感じられるのですが、教科書として先生方が扱いにくい、教えにくい、内容に不足があると感じている面で、今回私も教育出版と東京書籍は外しました。

残る帝国書院ですが、こちら紙面がぎっしりしていて、圧迫感を感じます。日本文教出版の主体的に考える発問が多いところと比較しますと、帝国書院は習ったことを整理、確認して暗記するような流れが多いように感じました。

また、日本文教出版が小学校から中学地理学習への関連づけを明確に示しているのに対し、帝国書院も同様のガイドがあるのですが、例えば小学校歴史・公民との関連、領土、領海、排他的経済水域などと単語が並んでいるだけなので、このガイドに従って生徒自身が各分野を関連づけるのは少し難しいと思いました。したがって４者の中で、私は日本文教出版を挙げさせていただきます。

〇三町委員

山口委員のお話とは逆に感じたところもありました。文章量が多いというのについては、逆にこれまでより、少なくなってきていると、社会科の文字、解説文について思いました。それと関連した資料から子どもたちに考えさせるための授業の展開を進めているという意味では、資料がたくさん載っていて、文章が少なくなっているという印象は持っています。

いかにそういった資料を活用するかは、子どもたちに地理的な読み方、書き方を育てさせてい

く、地域、場所、そういうものでの違いを見させていくことが大事だと思い見ました。その中で、教科書の作りはほとんど同じで、差はないと感じました。

それから、主体的な学びも差がないのですが、巻頭の扱いでは、教育出版、帝国書院、日本文教出版がいいと思います。本文の中身の流れについては東京書籍がいいと思います。それから振り返りの部分で言えば、東京書籍、帝国書院がいいと思いました。見方・考え方で言えば意識をさせている部分など、ポイントつけていくと、帝国書院が一番で、東京書籍、日本文教出版が僅差です。

ただ、山口委員の話を聞いていると、日本文教出版もいいという気もしましたが、二つ目を出すならば東京書籍です。

○丸山委員

地理の学習は、もちろん知識の習得もそうですけれども、多面的、多角的に思考し、それから議論というのが求められていると思います。

そういう意味で、様々な事象を扱っていることと、デジタルコンテンツが使いやすい、また、それによって理解が深められているという点で、帝国書院が適していると思います。

帝国書院は、節ごとに知識の振り返りがあって、さらに思考力、判断力、または表現力を培うような設問というのもあったので評価をしました。

二番ということを考えるならば、日本文教出版がデジタルコンテンツ等も充実しているのでいいと思います。

○森井教育長職務代理者

小学校で学んだ社会的事象の見方・考え方を基に、中学校では地理的な見方・考え方と歴史的な見方・考え方を働かせ、公民的分野では現代社会の見方・考え方へと学習を進めていきます。

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するために、地理は重要な科目であると認識しています。

それだけに、地理の教科書には、世界と日本との関係性や今日的な課題、そして歴史、公民につながる基礎的基本的知識の習得ができる教科書が求められます。

私は、４者の中で帝国書院の教科書が妥当であると思います。

理由といたしましては、皆様方からのご意見と重なる部分もあるかとは思いますが、審議委員会の報告から、内容については、４者ともに学習指導要領に基づき、正確かつ公正に取り扱っています。

帝国書院では、巻頭に「主体的な学びのために」として、学習の見通し、振り返りの流れが丁寧に示されていることで、生徒が授業を進める助けになると考えます。また、実際の本文ページを利用して、学習の仕方をしっかりと明記しています。そして、「多様的な学びのために」として、持続可能な社会をつくるために参考となる取組を紹介しています。

改訂の要点に示されている、日本の様々な地域の学習における防災学習の重視に関しては、１４８ページからの「日本の様々な自然災害」と「自然災害に対する備え」の中に網羅されており、日本周辺の主な火山と地震の震源地の資料や、今後想定される南海トラフについてもしっかりと記載しています。

また、「技能を磨く」として、ハザードマップの読み取り方や防災情報の入手の仕方などが示されていることで、自然災害の多い日本において、生きる力を養うという発展的な学習へとつなげることができると思いました。

我が国の位置と領土をめぐる問題の扱いについては、１８ページからの「日本の領域とその特色」として４ページにわたり取り上げており、北方領土、竹島や尖閣諸島が我が国固有の領土であるということをしっかりと記載しています。

また、今回の改訂では、「持続可能な社会づくりの観点から、地球規模の諸課題や地球課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められる」としています。

教科書では、世界の様々な地域の単元で、世界の諸地域について学習するとともに、学習の振り返りのページで、思考力、判断力、表現力を養う設問があり、ステップ１、２、３の発展的な問題の中に持続可能な社会の実現に向けての投げかけがあります。そして、巻頭にはＳＤＧｓを取り上げ、各項目に関連した写真を掲載していることで、生徒に地球的な課題を分かりやすく示しています。

それ以外には、１３０ページの「身近な地域の調査」で、調査例が東京の練馬区になっていることで、生徒に身近なものとして学習してもらえるという点。そして、２８６ページ、「地域のあり方」の中で、地域が抱える課題を発見、追究するという学習例に京都が取り上げられていることで、修学旅行で訪れる予定である場所として、生徒の興味・関心を想起させるものであろうと思いました。

ＱＲコードを活用し、学習を効果的に進める工夫や、生徒が学びの見通しを持ち、自ら学びを進めていける工夫もあり、審議委員会の総合的な所見では授業を展開しやすいという教員からの意見もあることに加え、何より生徒にとって分かりやすい教科書であると判断し、私は帝国書院が妥当であると考えました。

○古川教育長

ありがとうございます。

私は、学習指導要領に示されている地理的分野の目標である社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して、を意識し、課題解決的な学習に活用しやすいものという観点で検討いたしました。その結果、帝国書院の社会科「社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土」が良いと思いました。

各ページに示している学習課題が分かりやすく、見通しを持って学習できるようになっています。ページの右下にある「確認しよう」「説明しよう」が学習の内容を振り返るときに効果的で

す。また、章のまとめに「章の学習を振り返ろう」があり、知識や表現力、判断力の定着を確認することができるようになっています。

第２章の「日本の姿」が分かりやすいと思いました。日本の各地域の特色を捉えやすい構成になっています。日本の領域とその特色がとても分かりやすいと思いました。また、最も近い国である韓国について記述しているのも良いと思いました。二次元コードが活用しやすく、ＮＨＫの関連動画も見られるというのが良いと思いました。その結果、帝国書院がいいと思いました。

○三町委員

つけ足しておきますと、地域のあり方について、東京関連でいうと、教育出版は八王子、多摩と出ているのですが、帝国書院の場合は、練馬、それから修学旅行で行く京都をテーマにしているということ。これは日本文教出版も同じでした。ここでは自分としては帝国書院、日本文教出版です。

ただ、領土に関する記述については、帝国書院が、はっきりしていていいと思いました。そこについては東京書籍と帝国書院です。

それから、コンテンツについては、帝国書院の「ＮＨＫ　ｆｏｒ　Ｓｃｈｏｏｌ」というのが教科書で一日そのぐらいしゃべるというよりは、自分で学ぶほうが多いということで、コンテンツとしては帝国書院です。

東京書籍は、消して構わないと思います。ただ、日本文教出版については微妙なところで残るのならばもう一回検討します。トータルすると帝国書院かと思いました。

○山口委員

私も、４者から日本文教出版と挙げましたが、二番目に帝国書院を挙げております。内容は、皆さんがおっしゃったように、学習課題が明確であることですとか、領土に関しての記述が正しく載っていること。あとは、デジタルコンテンツも使いやすいということで、帝国書院を、日本文教出版と僅差で二番目に挙げておりました。帝国書院を残してもいいと思います。

○古川教育長

それでは、皆様のご意見から、社会の地理的分野につきましては、発行者名、帝国書院、図書名、「社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土」が妥当だと存じますが、よろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に、社会の歴史的分野の協議に入ります。

歴史的分野につきましては、発行者７者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げ

ますと、東京書籍が「新しい社会　歴史」、教育出版が「中学社会　歴史　未来をひらく」、帝国書院が「社会科　中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き」、山川出版社が「中学歴史　日本と世界」、日本文教出版が「中学社会　歴史的分野」、育鵬社が「[最新]新しい日本の歴史」、学び舎が「ともに学ぶ人間の歴史」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○三町委員

歴史は、いろいろな市民の声とか、理由はありますけれども、考え方が明確に出ている教科書が多いと感じました。主張があっていいと思います。調査報告書を見させていただくと、指導上かなり配慮したり、あるいは補足したりする必要があるという記述が大変多い教科書がありました。そういう教科書については実際に使う側、あるいは学ぶ側にとって、かなりのエネルギーをそこにかけなければいけないというところがあるので、まず基本的に３者については、調査の対象から外してしまいました。東京書籍と教育出版と帝国書院と日本文教出版を細かく見ました。

内容を見ますと、２０年ぐらい前の記述よりは、日本の立場をきちんと明確にした教科書になっているという思いはあります。２０年くらい前だと、近隣の諸国を意識し過ぎた表現が強く出ていました。それがかなり抑えられているという印象です。冒頭の扱いとしては、それぞれ特徴があっていいと思います。東京書籍の「歴史の扉」、日本文教出版の「見方・考え方」は明確に書かれている。帝国書院もそうでした。こういうところでは東京書籍、帝国書院、日本文教出版がいいと思いました。

それに対して、各章の導入については、それぞれ工夫があって面白いのですけれども、特に東京書籍、日本文教出版です。それから項目の表現については、教育出版の項立ての名前が一貫しておりません。キャッチコピー的なものであったり、普通のタイトルっぽくなったりして、初めに普通の一般的な表現で下にサブタイトルをつけている日本文教出版のような在り方の方が、自然だと思いました。

それから、歴史は絶対に年を追って学ぶということではなくて、大きなくくりもできますから、時代的に行ったり来たりというようなことがあると思います。各ページなり、見開きの中に年表が入っているというときに、一般の年表は横ですが、横の教科書が東京書籍と教育出版です。ただ、横の場合だと幅が狭いので、扱っているところがどこかが非常に見えにくいです。縦は脇にずっとあって、長いから扱っているところは見えやすい。年表としての長短をつけにくいというようなところがありますけれども。内容的には、特に領土の確定の記述を見ると、東京書籍が一番しっかり書いてくれているという感じがしました。

それから、アイヌと沖縄に関するところで、室町時代の交易などや明治期の領土の画定でいうと、帝国書院がしっかり書いてくれています。順番としては東京書籍、それから日本文教出版と帝国書院が同じくらいです。この後、話を聞きながら絞っていきたいと思います。

○丸山委員

私も、調査報告書にありましたけれども、適切に理解するために補足が必要だとか、指導に工夫が必要、また配慮が必要であるというのは、教科書としては好ましくないのではないかと考えています。

そうした観点から、私は帝国書院と日本文教出版を候補に挙げました。どちらも基本事項を網羅している上で理解を助ける参考図であるとか、写真というのが適度に使用されていますし、またコラムとかでプラスアルファの情報があって、様々な興味を引き出す工夫がされているように思います。また、どちらもＱＲコードで趣向を凝らしたコンテンツを用意している点も評価できます。

この両者で見たときに、帝国書院の本の冒頭で、仙台を取り上げていて、仙台の歴史の調べ方であるとか、まとめ方とか、またその発想の仕方とか、具体的に記されていて、そういうところが生徒には、歴史勉強、歴史研究という意味では、導入部分としては分かりやすいと思いました。また、帝国書院は「確認しよう」とか、「説明しよう」という問いが、地理でもそうでしたけれども、設定されていて、文章を読んで、自らエッセンスを引き出すような訓練ができるようになっている点でも評価しました。

○山口委員

私も、先生方や市民アンケート、調査部会からの報告書を見せていただいて、扱いづらい、表現が難解、正しい理解に配慮や工夫が必要などとの意見が、多く挙がっているものに関しましては、生徒と先生、どちらにとってもいいことがないと私は思いましたので、はじかせていただきました。７者の中で、私は教育出版と日本文教出版、二つ挙げさせていただきます。

教育出版は、紙面が非常に見やすく、教科書が軽いです。先ほど三町委員からキャッチコピー的な項立てがあって分かりにくいというようなお話もありましたが、全体を通して、平易で分かりやすく、子どもたちが親しみやすい表現で多面的な資料、比較的新しい資料を使っている印象です。歴史学習に苦手意識を持つ生徒も、興味をもって学習に取り組めるのではないかと感じましたので、生徒目線では教育出版がいいという印象です。

一方の日本文教出版ですが、こちらも紙面が見やすかったです。全体的に説明が丁寧で、先生方にとっては扱いやすいかと思いました。生徒自身の考えや意見を書かせる欄が教科書内に複数ありましたので、主体的に学びを深めていくという点でも、日本文教出版の教科書はいいと思いました。

３番目に帝国書院を私は挙げていたのですが、こちらは先ほどの地理と一緒で、教科書自体が重く、紙面の余白が少なくて、ぎっしりした印象を受けています。資料の説明は充実していて、先生方や歴史が得意な生徒には好評だと思うのですが、どちらかというと大学で歴史学を深めていくというようなイメージを持ちました。使いやすさ、歴史の学習が始まるという中学生の教科書としては、教育出版と日本文教出版の二つ挙げさせていただきます。

○森井教育長職務代理者

多くの出版会社より見本本が提出された中で、私としては帝国書院、そして日本文教出版の２者で決めかねているところです。

審議委員会の調査報告では、学習指導要領に基づき、２者ともに正確、かつ公正であり、それぞれに基礎・基本の確実な習得を助ける内容であるとのことです。また、構成上の工夫においても生徒の発達の段階に応じた分量であり、生徒にとって分かりやすい表現であるとのことですが、教育出版、東京書籍とも、報告の中に「平易な表現のため分かりやすいが、読み方によっては適切な理解とならない表現もある」という報告がありますが、事務局に伺いたいのですが、それはどの部分のことで、適切な理解とならないというのは、どういうことなのか、ご説明いただくことはできますでしょうか。

○豊田指導主事

歴史的分野による教科書の見方でございますが、該当するところの箇所として、単元の題名等が挙げられます。また、資料の説明の中においても、画一的な見方をしてしまう箇所もございますので、教師等による補足的な説明や多角的な見方ということが指導の中で必要になってくると思います。

○森井教育長職務代理者

ありがとうございました。生徒にとって分かりにくいような表現がされているということが、東京書籍、教育出版の中にあるのであれば、私としては帝国書院、日本文教出版の２者が妥当だと考えます。

平成２４年度使用、そして平成２８年度使用の中学校教科書採択の折に、私は歴史の資料には過度のキャラクターの吹き出しなどの必要性を余り感じないと申し上げてきました。現在でもその考えに変わりはないのですが、各者ともに生徒に歴史的な考え方・見方を働かせるための気づきや問題提起をキャラクターの存在が適度に促しており、学習効果を高めるのに役立っていると今回は感じました。このような点から教科書の進化というのでしょうか、教科書全体の質の向上を改めて感じるところです。

皆様方のご意見を伺って、私は帝国書院、日本文教出版の２者を候補にして、また再度検討させていただければと思っています。

○古川教育長

発行者７者について、教科用図書審議委員会から全ての教科書が学習指導要領に基づき正確かつ公正であるという報告がありました。その中で、私は学習指導要領に示されています歴史的分野の目標である社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して意識し、課題解決的な学習に活用しやすいものという観点で検討いたしました。

その結果、東京書籍の「新しい社会　歴史」が良いと思いました。各章ごとに課題を意識して、学習に取り組ませるようにしています。また、先ほど三町委員が話されましたが、左のページの

下に年表、右のページの下にチェックとトライというのが書いてあって、使いやすい構成だと感じます。章の終わりには、基礎・基本のまとめと、まとめの活動があり、振り返りができるようになっています。第１章の「歴史の扉」がとても分かりやすく、どのように学習を進めていけばいいか、理解しやすいと思いました。特に教科書１２ページ、１３ページに紹介している同じ場所で時代が異なる絵を見せて、違いを考えさせる学習、これは歴史の学習では有効な方法だと思っております。また、本文以外に書かれているところが、見やすいように下地の色が考えられているため、写真もとてもきれいだと思いました。

次に選ぶとしたら、帝国書院、「社会科　中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き」が良いと思います。これは巻頭にある、この教科書の学習の仕方に見通し、授業の展開、振り返りと学習の流れが示されています。主体的な学びにつながると思いました。時代が変わるところにタイムトラベルというページがあって、その時代の要素をつかめるイラストが見開きで大きく載っています。生徒が興味をもって学習するきっかけになるのではないかと思います。また、資料や説明が充実しています。ただ、気になったのは、年表が右の横についていて、縦になっていて、時代の把握がしづらいと思いました。

それから、先ほどお話しした下地の色の関係で、本文以外の文字が見えにくいです。

一番は、東京書籍、二番ということになると、帝国書院です。

○古川教育長

委員の皆様のご意見から、社会の歴史的分野につきましては、発行者名、東京書籍、図書名「新しい社会　歴史」、それから発行者名、帝国書院、図書名「社会科　中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き」、発行者名、日本文教出版、図書名「中学社会　歴史的分野」、この３者を候補としたいと存じますが、よろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

続いて、社会の公民的分野の協議に入ります。公民的分野につきましては、発行者６者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会　公民」、教育出版が「中学社会　公民　ともに生きる」、帝国書院が「社会科　中学生の公民　よりよい社会を目指して」、日本文教出版が「中学社会　公民的分野」、自由社が「新しい公民教科書」、育鵬社が「[最新]新しいみんなの公民」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○三町委員

公民的分野について、教科書としての作りはどうなのかということで見ていきました。今回６者の中で全部を比較して、ポイント化しています。その中で扉のページあたりの扱いで、東京書

籍、教育出版、日本文教出版がいいと思います。次に学習の仕方で見ると、帝国書院が分かりやすいです。学習の見通しだとか学び方についての表現は、感覚的になるにしても、教育出版や帝国書院がいいという感じはしました。

学習課題の表現については、自由社がどうも分かりにくかったです。

それから、文章表現としての全体的なバランスで見ると、東京書籍、教育出版、帝国書院でした。余り差は感じませんでした。章の振り返りについては、日本文教出版が少なく、自由社、育鵬社についてはかなり少ないという印象です。

それから記述にあって気になったところで、東京書籍は掘り下げが浅いというような表現がありました。

それから、ＱＲコードについては使い方でしょうけれども、帝国書院と日本文教出版が一緒でした。

私は帝国書院、日本文教出版です。

○森井教育長職務代理者

６者から見本本の提出がございました。その中で私といたしましては、帝国書院と日本文教出版の教科書が妥当だと感じました。地理、歴史と学んできた生徒にとって初めて学習する公民的分野という教科を、小学校や中学校社会科の学習の集大成と位置づけるために、２者とも学習を始めるにあたって、生徒に向かってのメッセージや公民的分野を学ぶ上での指針を示しています。

審議委員会の報告によると、帝国書院は各章末のまとめの内容が明確であり、語句の説明や資料の確かめについて、生徒が容易に活用できるとのことです。また、総合的な所見では、経済分野で各節と冒頭にある家計、企業、政府、銀行の関係図が、生徒が経済全体を理解しやすい構成であるとされています。また、見開きページごとに記載されている「確認しよう」「説明しよう」では、学習した内容を基に考えることが明確に示されているとのことです。

日本文教出版では、多様なイラストで生徒の興味・関心を引き出す工夫があり、発達の段階に即した内容であること。また、総合的な所見では、学習課題の「見方・考え方」や、アクティビティが学習指導要領に基づいた資質・能力を育成する学習活動に役立つものとなっているとの報告がありました。実際に教科書を開いてみると、今回軽量化された帝国書院の教科書は使いやすく、紙面は多くの資料があるにもかかわらず、すっきりと見やすい構成になっています。また、公民的分野の目指すよりよい社会を目指し、自ら考え、主体的に社会の形成に参画できるようになるための学習が進められるような工夫が随所に見られます。現代社会、政治、経済、そして国際の単元で学ぶことで、持続可能な社会の実現に向けて何ができるのか、何をすべきかをしっかり生徒自身が考えることができる教科書であると思いました。

日本文教出版は、巻頭にＳＤＧｓを示し、公民の学習の目指す方向を最初にしっかりと示しています。写真や図、表やイラストを駆使して、生徒に分かりやすい教科書づくりの工夫が見えます。文章だけでは分かりにくい内容も、イラストなど、視覚に訴える工夫により、生徒の興味・関心を引くことにつながっています。

帝国書院の教科書では、巻末に「もっと広い世界へ～夢を追い続けて」として地理、歴史、公民の各分野で身につけた人間や社会についての見方・考え方を基にした、「よりよい社会の実現に連携して参画する姿勢や行動こそが、今求められる学びの形であり、人々のために知識や理解を役立てることは、実は自分自身の夢の実現であり、よりよい幸福な社会の実現につながる」と書かれています。

また、日本文教出版では巻末に「公民を学んで」の中で、「私たちはそれぞれの人生を自らの力で切り開く努力をするとともに、多くの人たちによって生かされていることにも思いを及ぼしながら、ほかの人たちのためにも生きることの意味を実感したいものです」と書かれています。

公民的分野は、政治や経済などの仕組みを知る、これからの社会を生きていくために必要な学習ですが、生徒には難しい内容も含まれています。より良い教科書で小平の子どもたちにも学んでほしいという願いを込めて、帝国書院と日本文教出版の教科書を候補としたいと思います。

○丸山委員

公民に関して、歴史と同じですけれども、教師の裁量に関わらず、分かりやすい説明がされて、そこから社会的な見方とか考え方というのをもって問題に向き合う力を培うことができるというのがポイントとなると思います。そうした点では、皆さんと同じように帝国書院と日本文教出版、どちらも甲乙つけがたいところだと思っています。

強いて言うなら、日本文教出版はＱＲコードのリンクが、例えばワークシートがあったり、動画があったり、または関連サイトにリンクされたりと、本当にバラエティ豊富で、自学自習の観点では使い勝手がいいと思います。

帝国書院は、４７０グラムという軽さというのも大きい点だと思います。

○山口委員

私も６者全部見せていただいて、６者のうち、２者は日本国憲法、戦争、国民主権の根幹に関わる記述に、私自身も違和感を覚えました。中学生のうちは政治に関して多角的で自由、公平な視点を身につけてほしいと思いました。

残る４者の中で私が一番だと思ったのは日本文教出版です。皆さんのお話にありましたように、ＱＲコードからのデジタルコンテンツが充実しております。目指す内容もしっかりと示されています。色合いや図、表、イラストの配置やバランス、紙面の余白、文字の大きさなど、４者の中では一番見やすいと思いました。森井委員の話にもありましたが、アクティビティ「選挙に行きたくなる仕組みを自分たちで考えてみよう」ですとか、「中学生でも裁判は傍聴できるのか」「自分が市長なら地域の課題に対して何をするのか」など、全体を通して、今の社会や政治の課題に対して、自分たちに何ができるのか、考えてみよう、話し合ってみよう、プレゼンテーションしてみようという問いかけが多く、この点が非常に良かったと思います。

一番が日本文教出版ですが、二番目が帝国書院と教育出版です。こちら先ほどの歴史の分野と一緒ですが、教育出版は紙面がとても見やすく、使われている資料や写真も新しいですし、社会

を地理で空間的に理解し、歴史で時間的に理解し、それらを土台に公民では持続可能な未来に自分たちで主体的にかかわる力を養うと明確に示されている点がいいと思っています。

一番の日本文教出版が、自分たちの身近な社会に光を当てているのに対して、教育出版の視点は地球全体、世界に向いていると感じています。中学生にはまず身近なところからと思ったので、日本文教出版を一番に挙げさせていただきました。

一方の帝国書院ですけれども、解説が丁寧で配列も分かりやすく、先生方にとっては指導がしやすいバランスの取れた教科書だと思いました。一方で、紙面が帝国書院はやはり見づらいと私は感じました。文字のサイズが他社と比べて小さく、余白もありません。政治経済的な用語を正しく使って説明する代償として、全体的にルビつきの漢字が多く、それが紙面を見にくくする要因になっていると思います。

帝国書院は歴史と一緒で、より専門的で難しい、高度なというイメージを持ちました。教育出版はより平易で、子どもたちの実力に関わらず、どんな子でも公民に興味が持てる教科書だと思っています。

したがって、一番に日本文教出版、二番目に教育出版と帝国書院を挙げさせていただきます。

○古川教育長

私は、学習指導要領に示されている公民的分野の目標、歴史分野、地理分野と同じように課題解決的な学習に活用しやすいものという観点で検討いたしました。その結果、帝国書院の「社会科　中学生の公民　よりよい社会を目指して」が良いと思いました。

まず、巻頭にある「この教科書の学習の仕方」に本文ページの学習の仕方が書かれてあります。学習の流れが示されており、課題解決的な学びにつながると思いました。巻頭の８ページに「学習のはじめに」というページがあり、公民の学習が何のためにあるのかということが示されてあります。１ページ、２ページ目のイラストは現在と４０年前のもので、イラストで比較するような内容なので、生徒の興味・関心を引きつけると思いました。節ごとに書かれている問はとても具体的で、各ページに示している学習課題が分かりやすく、見通しをもって学習できるようになっています。

また、ページの右下にある「確認しよう、説明しよう」は、学習した内容を振り返るのに効果的だと思いました。章の終わりにある「学習を振り返ろう」によって、知識や表現力、判断力の定着を確認することができるようになっているのもいい点だと思いました。写真や図、表に資料名がきちんと明示されていて、ともに補足の説明がしっかりしてあります。資料活用能力の育成につながると思いました。６者の中では一番軽量化が図れています。といっても資料の量や内容は適切だと思いました。

○山口委員

皆さんの話を聞いていて、私も帝国書院と日本文教出版でいいと思いました。

○古川教育長

それでは、皆様の意見から、社会の公民的分野につきましては、発行者名、帝国書院、図書名「社会科　中学生の公民　よりよい社会を目指して」と、発行者名、日本文教出版、「中学社会公民的分野」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

続いて、社会の地図の協議に入ります。地図につきましては、発行者２者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会　地図」、帝国書院が「中学校社会科地図」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○山口委員

地図帳は２者からですので、単純に２者を比較して見ております。内容的にはどちらも大差はないですし、どちらも使いやすい地図帳だと思いました。

その中で私は、帝国書院を推薦いたします。大判なのですが、教科書が非常に軽くできております。色彩も鮮やかで、地図全体が見やすいです。例えば、アメリカ合衆国のページを見てみると、地図の縮尺は帝国書院、東京書籍どちらも載っているのですが、水深と陸の高さ、例えば地図の濃い水色の部分は、水深何メートルなのという尺度の表記が、帝国書院はどのページにもあるのですが、東京書籍にはありませんでした。国内の地図に関しましても、例えば黄色の部分は市街地、ピンク色は果樹園などと、帝国書院は解説とともに色分けされています。東京書籍も同じような色合いの地図なのですが、それが水深や高さで色分けされているのか、市街地が何色、果樹園が何色ということで表現されているのか、該当のページだけでは分かりません。

以上のことから、私は帝国書院を推薦いたします。

○三町委員

私は帝国書院を推薦します。山口委員と同じで大きさについては帝国書院の方が大きめですけれども、見やすさなどいいと思いました。

やはり地図ですから、見やすいもの、資料についても、それほどの多くの差はないと思いましたけれども、環境に関わるようなところの扱いは違っても同じくらいでした。ただ、防災や自然災害のところは、若干帝国書院の方が多いという感じがしました。

それから領土をめぐる問題についての扱いも、帝国書院の方がしっかり書かれているということで帝国書院になりましたけれども、今振り返ってみますと、地理が帝国書院だと、ＱＲコードの意味がなくなってしまったのか、もし違えば白地図が使えるので東京書籍の方がいいかとも思いました。ＱＲコードは使えませんけれども、比較すると帝国書院の方が使いやすいと思います

ので、帝国書院にしました。

○丸山委員

私も帝国書院です。大判で掲載の地図も大きくて、発色もすごく明瞭で、非常に見やすいと思います。東京都の周辺の地形というページで、水と人間のかかわり、防災という部分では、例えば小平市であるとか、この多摩地域まで網羅されていて、地図帳で自分たちの町というのを認識するというのは、やはり楽しいですし、面白いですし、いろんな興味が湧くと思いますので、とてもいいと思います。

索引も東京書籍に比べると字が比較的に大きくて、見やすかったので、そういう意味でも評価しました。

○森井教育長職務代理者

私も帝国書院の教科書がいいと思いました。審議委員会からの報告でも、２者ともに地図帳でありながら歴史的分野や公民的分野での使用を想定した編集になっていると報告されています。それぞれの趣意書を見させていただき、帝国書院は変化する日本と世界を広く深く自ら学べる地図帳であり、ユニバーサルデザインに配慮した誰でも見やすい地図とのことです。東京書籍では社会科の３分野の学習で地図帳を効果的に活用することに留意しており、教科書での学びをサポートし、今を問い、未来をともに拓く力を育てる地図帳であるというふうに、それぞれの特徴が記載されてありました。

２者の地図の部分については、それぞれに落ち着いた色調で、全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインされているとのことで、長時間見て学習する際の生徒への負担が少なくなるような配慮がされています。

また審議委員会からは、帝国書院の地図帳は資料図等が充実し、課題解決型の学習を行う際の資料としても有効であるとありました。修学旅行等に活用できる資料を掲載していて、地図帳の汎用性を高める工夫があり、防災や領土の資料等、現代の課題にも対応しているなどの報告もありました。地図の見やすさと充実した資料の多さなどの理由から、私も帝国書院が妥当であると感じました。

○古川教育長

私も帝国書院の「中学校社会科地図」が良いと思いました。巻頭の地図帳の使い方が３ページにわたって書かれています。防災についてなどの資料等が充実しており、生徒が主体的に学習できるようになっているのが良いと思いました。Ａ４判と大判ですが、そのため、地図が見やすいですし、大判でありながら軽量化が図られている。それほど重いという感じを受けないことがいいと思いました。また、何よりも地図の色の濃淡がはっきりしていて、見やすいと思いました。北方領土について、１４２ページの「日本とロシア　ソ連の国境の変遷」という資料が大変分かりやすいと思いました。

以上の結果、帝国書院がいいと思いました。

５人とも一致していますので、それでは、発行者名、帝国書院、図書名「中学校社会科地図」が妥当だと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に、数学に移ります。

数学について、事務局から説明をお願いします。

○国冨教育指導担当部長

数学につきましては、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質能力を育成することが目標に示されています。育成を目指す資質能力に基づいた数学科の目標は、知識及び技能については、数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などを理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現、処理したりする技能を身につけるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、数学を活用して、事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし、総合的、発展的に考察する力、数学的な表現を用いて、事象を簡潔、明瞭、的確に表現する力を養う。学びに向かう力については、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して、粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価、改善しようとする態度を養うことでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、数学の協議に入ります。数学につきましては、発行者７者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい数学」、大日本図書が「数学の世界」、学校図書が「中学校数学」、教育出版が「中学数学」、新興出版社啓林館が「未来へひろがる数学」、数研出版が「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる　これからの数学」、日本文教出版が「中学数学」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○三町委員

以前から言われていますけれども、数学的な活動をいかに生徒が行って、知識、見方・考え方を育てていくか、そういうところが重点だと理解しています。教科書の作りがそういう形になっているかというところが一つの視点になります。それから、報告書の中にもありましたが、内容として中学校３年生から１年生へおりてきた、素因数分解の扱いなど、高校から中学校３年生におりてきた箱ひげ図等の扱い、それから１年生で多数回の試行、これも新しい内容です。そこに

ついて比較をしました。

結論をまず言います。東京書籍が一番でした。二番を選ぶとするならば、学校図書と啓林館でした。

作りそのものについては、東京書籍、学校図書、啓林館でいえば、そんなに大きな差はないと思いました。巻頭の扱い、ノートの作り方、そういったところでの観点の扱い。それから一つの単元の流れについて、東京書籍にポイントをつけました。学校図書にも少しポイントをつけました。

内容的に、調査報告書の中で素因数分解が東京書籍でゼロ章なので、扱いにくいというのがあったので見てみました。今まで中学校３年生で因数分解と一緒に教えていたものが１年生におりてきた。どこで位置づけるかというのは、これは数学の教育の中で分かれているところです。教科書を見ても３者と４者に分かれていました。１章扱いで、１年の最初に扱うのが３者、それから正の数が終わって、つまり数を負の数まで拡張した後で、もう一回全体を振り返って整数を見るという見方の扱い。どちらも問題ないということですから、このゼロ章扱いというのはキーワードでゼロというのが気になっただけなのかと思います。扱いとしては東京書籍とか大日本図書と同じ扱いで問題ないと思いました。

逆に正の数、負の数の乗法の扱いです。掛け算の扱いが啓林館だけは、累加の考えで、例えば２掛ける３だったら、２足す２足す２というのを小学校の最初に学ぶ形の、そこから導入しています。導入の仕方としての扱いでは啓林館が他と変わっているので、間違ってはいないですけれども、配慮が必要な方法なので、三角にしました。

それから、多数回の試行、確率は単なる裏表があるから２分の１ではなくて、何回かやって、その中で統計的に出てきたもので確率と位置づける。その考え方についての表現としては、私は東京書籍が一番良かったです。

それから、高校からおりてきた箱ひげ図です。度数分布表は、Ａ組の身長の分布、Ｂ組の身長の分布。比較する分布表が二つくらいだったらそのままでも見やすいですけれども、増えると、別の形の表現が有効だというような考え方で取り扱っているところを見たのですけれども、それでいうと東京書籍、学校図書、啓林館が扱いとしてはいいと思いました。

そういったところで見て、ポイントを入れていくと、さっき言いましたように東京書籍が、少し点数が多くて、それから少し下がって、学校図書、啓林館の三つになりました。

○山口委員

中学校に入った途端につまずいて、最終的に得点できる子と、できない子の差が大きくなる科目と私は認識しています。単純な計算問題などは、今後、デジタル教材などで、それぞれの生徒が個別最適化されたレベルでブラッシュアップしていけるようになると思います。

以上のことから、私は数学では算数から数学への導入に無理のないもの、また全体的に基礎・基本の解説や問題に重点を置いている教科書という視点で選択しました。

私は７者の中で一番いいと思ったのが日本文教出版でした。こちらは紙面が見やすいです。小

学校の復習から正負の数という導入で入っていきます。ここにも無理がないと思いました。調査資料で、例題の数が７者中、一番多いとありました。授業のときに考え方や途中経過を小まめに確認しながら進められることで、苦手な生徒が減ってくるのではないかと思いました。ＱＲコードには、簡単な計算、演習問題と解説や理解を助ける動画が収録されていて、これも使いやすいと思いました。

あとの教科書は、どれも本当に甲乙つけがたく、判断が難しいと思っております。東京書籍も内容がしっかりしていて、私はいいと思っているのですが、全体的に少しレベルが高く、素因数分解がゼロ章ということで、いきなり素因数分解の解説に入っていきます。九九の表の決まりを見つける導入から、素因数分解への解説に続いていくのですが、誘導の仕方、難しい例題を挙げて解説しているので、算数に苦手意識を持っていた子は、ここでドロップアウトしてしまうのではないかという印象です。

教育出版も面白いと思ったのですが、こちらはどちらかというと大学生の数学のようなイメージです。数学の面白さなどでいえば、教育出版が一番でしたが、基礎・基本を大事にしているという点で、私は日本文教出版を一番に推薦します。

二番目をということであれば、東京書籍です。

○丸山委員

数学は数量とか図形についての基礎的な概念、原則、法則とかを理解した上で、それを実際の事象に生かしていくということが求められていくようですけれども、まずは当然のことですけれども、万人が分かりやい、教科書を見れば分かるということが前提だと思います。さらに、たくさんの例題を解いて、法則を身につけるということが大切かと思います。

そうした観点から私がピックアップしたのは、説明がまず丁寧で、そして類題が直後に掲載され、さらに応用問題というのも付属しているという点で、東京書籍、続いて教育出版だと思います。

また、ほかの教科書もそうですけれども、具体的な事象で、身の回りの事象というのを取り入れて、数学的な活動の面白さというのを実感できるようにしている点というのも評価できます。

あと、山口委員がおっしゃっていた日本文教出版についても、私がさっき挙げた点からは逸れるのですけれども、ＱＲコードを利用してデジタルで理解をするという意味では優れていると思います。

○森井教育長職務代理者

私も審議委員会からの報告で、中学の最初に素因数分解を先に扱っている教科書が何社かあり、最初の学習としては難しく感じてしまうというようなご意見がありました。今、山口委員からも、中学校１年生に上がって最初に開いたページに素因数分解の解説があると子どもたちは二の足を踏むのではないかというご意見もありました。そういうことも考慮しながら、私は７者のうち、学校図書と日本文教出版がいいのではないかと思いました。皆様方のご意見と重なる部分がある

かと思いますけれども、私の意見を述べさせていただきます。

巻頭にあるノート指導においては、２者ともに丁寧に扱っており、間違えても同じ間違いを繰り返さない点にはどうすればいいのか、ノートを工夫して書くことで学習を振り返ることができ、次の学習に役立つことなどをしっかりと示しています。さらに学校図書では、数学的な見方・考え方を働かせ、主体的、対話的に解決を導き出し、問題解決後さらに深める学習を数学的活動としています。そして巻末で「さらなる数学へ　共同学習のページ」では、１年間で学んだことから、数学的な見方・考え方を通して、持続可能な社会の担い手として、今の自分にできることは何なのかを考えられるようになっています。

市民アンケートでは、巻末のホワイトボードの有用性についてご意見をいただいておりますが、生徒が個人で、またグループで考えを出し合う際に役立てることができるとの意見が、審議委員会からの委員からも出ています。

日本文教出版では、巻頭の「数学の学習をはじめよう」のページにおいて、学習指導要領の目標の一つである、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の課程を振り返って評価、改善しようとする態度を養うことを示しており、数学の学習の流れをイメージ図や学びのポイントで分かりやすく説明しています。

また、１学年の教科書では、各章の直前に「次の章を学ぶ前に」を設け、小学校での復習事項を丁寧に示しているところで、小・中連携を意識した工夫があります。また、巻末に算数の確かめ「問題編」があることで、振り返りができること。また各小節に設定している、やや難易度の高い「チャレンジ」や「やってみよう」。節末の基本の問題。章末の章の問題や、やや難易度の高い問題の「取り組んでみよう」が設定されていることで、個に応じた学習ができる教科書であると感じました。審議委員会委員からは、基本的な内容を丁寧に扱っており、数学が苦手な生徒に適した内容になっているとの意見がありました。

私としては、基礎・基本をしっかり学び、数学活動の楽しさや、数学の良さを実感して、粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を示すような教科書がより良い教科書であるとの判断をし、学校図書、日本文教出版の２者を候補としたいと思います。

○古川教育長

ありがとうございました。

私は学習指導要領によります数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質能力を育成するという目標で、特に問題解決の過程を振り返って、評価、改善しようとする態度を養うという観点で検討いたしました。

その結果、東京書籍の「新しい数学」が良いと思います。１年の巻頭にある、「この本の使い方」と、「大切にしたい数学の学び方」により、課題解決的な学習を説明しています。また、１４ページ、１５ページに「数学マイノート」があり、課題解決的な学習の流れに沿ってノートを取るように示してあります。節ごとに基本の問題、章の終わりには理解を確認するための「章の問題Ａ」と、応用力や活用力を高めるための「章の問題Ｂ」があり、振り返って評価できるよう

になっています。巻末に補充の問題がたくさん載っています。また、数学の自由研究も生徒の自学に活用できるようになっているなと思いました。また、インターネットのデジタルコンテンツが充実しているのもいいと思いました。ただ、様々なマークがたくさんあって、少し煩雑かというのは気になりました。

〇三町委員

補足させてもらいます。先ほどの導入についての最初に出会うものについてですけれども、この書き方でそうなっているのでしょうけれども、小学校の算数で学習したものを振り返った中で、整数についてもう一回問い直すというところで、要は小学校の学習をもう一回振り返るという意味です。だから、東京書籍や大日本図書、それから教育出版はそういう扱いをしています。だから難しいのではなく、例えば分数の足し算するときに通分したり、約分したりするときは、整数を２つの数のかけ算の形に分けています。そういう小学校の活動をしているわけです。だから、内容的には決して難しくはないということを、まず１点補足します。

それから、後ろに持ってきているのは、小学校でプラスしかしていなかった。逆に、中学校で新しくマイナスを勉強した。そこで全部を振り返った中で、整数をもう一回見直しましょうというような、ストーリーが違う内容です。だから、全く抵抗は、ないと思っています。これだけは補足させてください。

〇森井教育長職務代理者

今の三町委員の参考になるご意見を伺いましたので、東京書籍を、再度見直したいと思いますが、よろしいでしょうか。東京書籍は候補として挙げていただいて、私の候補としては、日本文教出版１本にしたいと思います。

〇古川教育長

それでは、委員の皆様から、２者に絞られたと思うのですが、よろしいでしょうか。

それでは、確認いたします。発行者名、東京書籍、図書名「新しい数学」、それから発行者名、日本文教出版、図書名「中学数学」、この２者でということでよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

〇古川教育長

ここで、２時間経ちましたので、一度休憩したいと存じます。１５時５０分再開ということで、よろしくお願いいたします。

午後３時３３分　休憩

午後３時５０分　再開

○古川教育長

それでは、休憩前に引き続き、理科から協議を再開いたします。理科について、事務局から説明願います。

○国冨教育指導担当部長

理科につきましては、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することが目標に示されています。育成を目指す資質・能力に基づいた理科の目標は、知識及び技能については、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うこと。学びに向かう力については、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うことでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、理科の協議に入ります。理科につきましては、発行者５者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい科学」、大日本図書が「理科の世界」、学校図書が「中学校科学」、教育出版が「自然の探究　中学理科」、新興出版社啓林館が「未来へひろがるサイエンス」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○三町委員

理科そのものが課題を見つけて、それをどうやって追及していけばいいか考えて、それを観察したり実験したり、そういう中で勉強していく教科である。そういう認識の中で、教科書もそういう作りになっているかどうかというのが一番大きなところと思いました。

結論で言いますと、私は東京書籍を挙げました。学習の仕方とか、その方向性が一貫して明確でした。実験の数とかそういうところでも、東京書籍がいいかと思いました。また、単元配列については、調査報告書に書かれていた部分があったので見ましたけれども、教育出版はあまりよくなかったと思いました。

そのほか理科と関連で防災、自然災害関係、エネルギーの関係、それから持続可能な社会のための取組、そういったバランス見まして、東京書籍を挙げました。二番をあえて挙げるならば、大日本図書と啓林館です。

○丸山委員

私も、理科は「何でだろう」「どうしてだろう」という自分自身で問いを発して、それをいろいろな仮説をしながら解決していくという、そういうものだと思っています。とはいえ、きちんとした知識の獲得というのも必要です。まとまっている図とか表というのが添付されていて、視覚的に見やすい、暗記だけが全てではないですけれども、最終的には、使い勝手がいいものがよいと思います。

中でも東京書籍がいいと思います。単元ごとに用語説明であるとか、「たしかめと応用」の問題がまとまっていて、最終的な到達度を図ることもできますし、ＱＲコードでも、シミュレーションや動画であるとか、小まめに自主学習できる仕組みがきちんとできているように思います。教科書の形状としては、ほかの教科書に比べると、大日本図書は小さめですけれども、スリムでノートやプリントの横に置いても邪魔にならないという意味でも、評価できると思います。

○山口委員

私は、皆さんがおっしゃっているとおり、自分で課題を発見して解決できる教科書がいいと思って見ています。５者の中から、啓林館と東京書籍を推薦させていただきます。

啓林館は、デジタルコンテンツがかなり充実していますので、授業で活用できるのはもちろん、生徒は自宅学習時にも活用できるのではないかと思いました。教科書自体が分厚くて重いものの、掲載されている写真や図がきれいで、生徒の興味を引くものであると思いました。

もう一つ、東京書籍ですが、紙面が非常に見やすいです。写真などは、本当にすばらしいものが多い印象です。教科書の形が私は少し気になっておりまして、この形ですと、生徒にとっては、持ち歩きも管理も少し不便かと思いますし、細長いですので、ページの最後までいくと、教科書が自然と閉じてしまうようなところがありました。内容的には東京書籍が良かったのですが、サイズが気になるということで、啓林館と東京書籍、２者挙げさせていただきます。

○森井教育長職務代理者

見本本５者のうち、どれも良い教科書で、候補を絞るのに苦慮しましたが、私といたしましては、学校図書、啓林館がいいのではないかと思いました。審議委員会の報告によると、２者ともに小学校の振り返りがあり、つながりが分かりやすいとのことです。学校図書１学年には、「これまで学習したこと」と「思い出そう」で学んだ内容と小学校の該当の学年が記載してあります。啓林館は、「つながる学び」で、小学校で学んだ学年を記載しています。このように、小学校で学んだことを示すことで、学習の連続性を示すことができます。

それ以外の特徴といたしまして、学校図書は、巻頭の「理科のトリセツ」や「教科書の使い方」があることで、生徒自身が学びを深めるための工夫があり、確実な基礎・基本の習得に役立つものであると考えます。写真や図はやや小さめですが、資料が多く、紙面はすっきりと読みやすいと感じました。審議委員会委員の意見では、理科の学習内容を日常や職業と関連づけて紹介する場面もあり、キャリア教育につなげるような工夫も見られるとのことでした。また、全体的に配色は優しく見やすく、文章も簡潔であるとのことでした。市民アンケートでも、写真がきれ

いで読みやすさ、親しみやすさがあるとのご意見も頂いております。

啓林館は、まず教科書を開くと、美しい写真に目を奪われます。紙面に大きな写真や図があり、字体も見やすいことから、全体にすっきりとした印象を持ちました。「みんなで探求クラブ」では、これまで学んだことを生かしてさらに学びを深めていく工夫があり、ＱＲコードの資料は、学習の補足や実験器具の取扱いについても見ることができるようになっており、生徒が自学自習できるものです。ＱＲコードについては、市民アンケートで寄せられたご意見にも、啓林館の良い点であるとのことでした。

２者とも良いところがあり、１者には決めかねるところですので、私といたしましては、学校図書、啓林館の２者を候補としたいと思います。

○古川教育長

私は、学習指導要領にあります、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するという目標の中で、科学的に探究する態度を養うのはどれかという観点で検討いたしました。

その結果、東京書籍の「新しい科学」がいいと思いました。１年の巻頭にある「科学で調べよう」と「科学はこんなに便利」により、生徒に興味・関心を持たせるようにしています。引き続いて、「理科室のきまり」があり、その中には、目に薬品が入った場合の応急処置や実験中に地震が起きたときのことも書かれてあり、安全に配慮していることが伝わってきました。また、節ごとに課題が示されています。節ごとに実習や実験が「ステップ１」「ステップ２」のように書かれていて、学習の流れがつかみやすくなっています。章末には、各節の課題に対する結論の例が載っており、学習したことを確認することができます。さらに単元末には、「学習内容の整理」「たしかめと応用」「たしかめと応用（活用編）」があり、単元の学びの定着や学びの振り返りをすることができるようになっています。３年の教科書の１２２ページ、ＩＰＳ細胞を再生医学の挑戦として紹介してあり、興味が持てるよう扱っているのが良いと思いました。全体的に写真や図が明瞭で見やすく、分かりやすいと思います。ただ、縦がＡ４判という大きさが気になったのですが、横はＢ５判なので、机上で開いた場合も、それほど邪魔にはならないと思いました。それで東京書籍を選びました。

○森井教育長職務代理者

どの教科書も、本当に良い教科書だと思いました。皆様のご意見を総合いたしまして、学校図書の候補は取り下げたいと思います。併せて、私は東京書籍、判が大きいという点から、最初からこれは候補としてはどうなのかというような思いで見させていただいておりましたが、皆様方が良い点を示していただきましたので、それも考慮に入れて東京書籍をもう一度見直しさせていただきたいと思います。

○三町委員

私は、一番が東京書籍です。それから、二番をあえて挙げるならばということで、大日本図書と啓林館とお話させていただきましたけども、二つは取り下げます。

○古川教育長

今のところ多いのは東京書籍です。そして、次が啓林館です。２者でもう一回検討するということでよろしいですか。

○森井教育長職務代理者

教育長、三町委員から東京書籍がいい教科書であるというご意見を頂き、もう一度、東京書籍を見せていただきたいと思いますが、私としては、啓林館の候補を下げさせていただいても結構です。

○山口委員

啓林館と東京書籍ですと、内容的にはどちらもすばらしいところがある教科書だと思っています。東京書籍を私が二番目に挙げたのは、やはりサイズが変形判ということで、机上に置いたときや、かばんに入れたときに、子どもたちが扱いにくいのではと感じ、私はここをマイナス点にしておりました。ただ、皆さんのお話を聞いて、このサイズがプラスになるという考え方もあるとのことですので、私は東京書籍でもいいと思います。

○古川教育長

それでは、皆さんのご意見を伺うと、東京書籍に１本に絞るということでよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

発行者名、東京書籍、図書名「新しい科学」が妥当だと思いますが、よろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に音楽について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

音楽につきましては、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化を豊かに関わる資質・能力を育成することが目標に示され

ています。育成を目指す資質・能力に基づいた音楽科の目標は、知識及び技能については、曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、音楽表現を創意工夫することや音楽の良さや美しさを味わって聞くことができるようにすること。学びに向かう力については、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い豊かな情操を培うことでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、音楽の一般の協議に入ります。音楽の一般につきましては、発行者２者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「中学音楽」、教育芸術者が「中学生の音楽」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言お願いいたします。

○山口委員

音楽は２者ということですので、２者比較して見ております。内容でいうと、どちらも、甲乙つけがたい印象でした。

その中で私が選んだのは、教育出版です。ＱＲコードに、教科書に載っている曲の参考演奏、音源が聞けるというのがあります。同じく教育芸術社の方にもＱＲコードがついているのですが、こちらは音楽に関する人物や内容についての情報ということでした。私は参考演奏等が聞ける教育出版のＱＲコードの方が使いやすいと思いました。

次に教育出版は、楽典、音楽の記号などが各曲の右側に書き出されておりました。これはテスト対策などで使いやすい印象を受けました。楽譜をはじめ、教育芸術社に比べて教育出版が、全体的に紙面が見やすいと感じております。調査部会の先生方から、巻末の折り込みページが破れたり見づらかったりするという使用感についての問題が出されておりましたが、それをマイナスと考えても、全体的に紙面が見やすい、情報がすっきりしていると感じました。あとは、教育芸術社に比べて、視点が基礎・基本寄りだと思っています。苦手意識を持つ生徒も主体的に取り組みやすいのは、教育出版だと感じましたので、私は教育出版を推薦いたします。

○三町委員

音楽について、私は教育芸術社です。教育出版は、巻頭の「学びの意味」というのがいいと思いました。対応するところで学習内容を深めていくということで、教育芸術社は、イラストが多く、それも会話形式で学べるというのが、いいと思いました。また、学習の狙い、教材の扱い方が分かりやすく、音楽を形作っている要素というのがあると思うのですけれども、各教材についてしっかりあるというところが割と挙がっていました。ただ、私が見落としたのかどうか、写真

とか楽曲をイメージさせるための写真等の使い方は、教育出版の方がいいというのもありました。全体的には教育芸術社ですが、仰げば尊しは両者あるのですが、教育出版には、ふるさとがあって、教育芸術社にはありませんでした。そういうところが残念でした。ＱＲコードについては、教育出版が優れていると思いました。ただ、トータルすると、教育芸術社の方がポイント高くなりました。

○丸山委員

両者、本当に大差がないので、私もすごく悩みました。山口委員がおっしゃったように、ＱＲコードで楽曲をそのまま聞けるというのは、直接生の音を聞くわけですので、理解度というのも上がりますし、分かりやすいと思います。また、教育出版では、学びのポイントが左端に縦書きに書かれていて、それも分かりやすいと思いました。教育出版では、多少、古典芸能とか、邦楽だとかというのもページが多く割かれているような気もしまして、そういう点も、この教育出版を挙げた点になります。イラストについては、確かに教育芸術社が多いですけれども、私は、逆に具体的というよりも、イラストはできるだけ抽象的なものにして、視覚のイメージというよりも耳から聞くイメージというのを大切にしたほうがいいと思いまして、これも教育出版を選んだ理由です。

○森井教育長職務代理者

両者の教科書を見せていただきまして、本当にどちらも大変すばらしい教科書であると思いましたが、最初に目についたのは教育出版、「学びのユニット」です。生徒自身が学びの狙いと学習する曲や活動、学習を生かし深める工夫があります。また、一方、教育芸術社では、巻頭に学習内容がまとめられており、「音楽によって生活を明るく豊かなものにしましょう」と書かれています。こちらにも、それぞれの教材で学習することが丁寧に示されています。

また、私はこれまでの教科書採択に際し、重きを置いてまいりました「君が代」の扱いについて、両者を見させていただきました。どちらも国家として歌詞の意味を記載していますが、教育出版は、３年間通して歌詞と楽譜、それに歌詞の大意とさざれ石の写真が掲載されています。一方、教育芸術社では、歌詞、楽譜、大意と併せて国家、国旗と国際的儀礼の説明とオリンピック・パラリンピックに関する写真が掲載されていました。

そして、同じく発展的な内容として、防災や自然災害の扱いについては、東京都教育委員会の教科書調査研究資料によると、教育出版２・３年の下の教科書には、前回と同様ではありますが、東日本大震災後の岩手県の小学校で行われたワークショップやコンサートの様子が掲載されていました。教育芸術社では、２・３年下で「歌い継ごう、日本の歌」の中で、東日本大震災の復興支援プロジェクトの一環として作られた歌を掲載し、また、私たちが受け継ぐ郷土のまつりや芸能の教材の中で、東日本大震災の復興を願って岩手を訪れた生徒の演技等を披露した写真が掲載されています。

ＱＲコードは両者ともにあり、家庭で生徒が学習するときに役立てることができます。その他

については、両者とも学習指導要領に基づき、正確・公正に編集されており、各教材において、基礎・基本の確実な習得を助ける内容であるとの審議委員会からの報告もあります。

歌うことに関しては、教育出版には「歌うための準備」、教育芸術社では「My voice！自分の歌声を見つけよう」というページがあり、しっかりと指導されています。歌うための準備や姿勢、豊かな響きある歌声づくりと声の出る仕組みの説明を掲載し、この時期に起こる変声期についても、事象の説明だけでなく、この時期をどのように過ごしたらいいのかまで丁寧に示しているのは、教育芸術社でした。また、取り扱っている楽曲について、教育芸術社では、教材はもちろん、「歌い継ごう日本の歌」や「心通う合唱」においても、発達の段階に応じた選曲と、この時期の生徒に学んでほしい、また、興味・関心を持ってもらえる選曲になっていると思いました。

以上のことから、私は、教育芸術社の教科書が採択にふさわしいと考えています。

○古川教育長

ありがとうございました。

私は、学習指導要領から、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うという観点で検討いたしました。

結果的には、教育芸術社の「中学生の音楽」がいいと思いました。巻頭の８ページ、９ページに１年間で学習する内容が載っており、学習の狙いが分かるようになっています。また、「中学音楽１」の１４ページ、１５ページ、先ほど森井委員もお話しされていましたが、「My voice 自分の歌声を見つけよう」、また２０ページ、「My voice　変声期」の記述は、子どもたちに安心を与えてくれるだろうと感じました。また「中学音楽２・３下」の６４ページ、６５ページには、ルールを守って音楽を楽しもうということで、著作権等について分かりやすく説明しています。注意を促しています。今の時代の子どもたちには、大切なことと思いました。また、日本の文化・伝統に関わる扱いが多いと思いました。全体的に親しみの持てる楽曲が多く扱われていて、楽しさを感じると思いました。これも森井委員が話されたのですが、国歌「君が代」のページは、オリンピックの選手が使われており、我が国の繁栄だけではなく、他の国への敬意と尊重し合うことが大切だということを教えてくれています。ただ、二次元コードの活用については、教育出版の方が効果的だと思いました。

○丸山委員

本当に両者、大差はないので、そこの差別化という意味で、先ほど、私は古典芸能等の話をしましたけども、例えば東日本大震災関係の話という意味では、教育芸術社もいいと思いますので、教育出版は取り消します。

○山口委員

この２者については、本当に大差はないので、私も教育芸術社で問題ないと思います。

○古川教育長

ありがとうございました。

委員の皆様の意見が一致いたしましたので、音楽一般につきましては、発行者名、教育芸術社、図書名「中学生の音楽」が妥当だと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に音楽の器楽合奏の協議に入ります。音楽の器楽合奏につきましては、発行者２者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「中学器楽　音楽のおくりもの」、教育芸術社が「中学生の器楽」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。

○山口委員

こちらも２者の比較をしておりますが、先ほどと同じでどちらも優れていて、安心して使える教科書だという印象です。内容的には大きく差が見られなかったと思います。

その中で、私は、器楽も教育出版を推薦します。先ほどもありました、デジタルコンテンツですが、器楽の教科においては、模範演奏が気軽に聞けるというところが、先ほどの一般の音楽よりも重要になると捉えております。そして、内容が音楽一般と一緒で、基本的・基礎的な表現が多いと感じております。例えばチューニングの説明ですが、教育出版は「音合わせをすること」という表記になっているのに対し、教育芸術社は「ピッチを合わせること」という記載になっております。全体的に音楽や楽譜の知識がない、苦手意識を持っているお子さんには、教育出版が平易な言葉で使いやすいという印象を持ちました。

それと、全体の配列ですが、もう一方の教育芸術社は、大きく洋楽器、和楽器という分け方で、例えば、篠笛や尺八を和楽器のカテゴリーに分けております。一方、教育出版は、吹く楽器として、篠笛や尺八がリコーダーと同じカテゴリーに並んでおります。先生方からこの配列が指導時に工夫を要する、要はデメリットの点として挙がっているのですが、子どもたちにとっては、和楽器、洋楽器と分けるよりも、普段から馴染みのある洋楽器とそれに近い奏法の和楽器が並んでいる配列の方が、より和楽器に親しみが持てるのではないかと感じたので、私はここをデメリットとは捉えませんでした。

以上のことから、私は一番に教育出版を推薦いたします。

○丸山委員

私も、本当に大差はありませんでした。先ほどの音楽一般同様に、教育出版を挙げました。和楽器が多く取り上げられていますし、学校教育だからこそ日本の古典芸能とか民俗芸能とかというのを学習する機会というのが得られると思いまして、古典芸能等の記述が多いもの、またＱＲ

コードも充実している、教育出版を挙げました。

○森井教育長職務代理者

器楽についても、それぞれに良い教科書であると思います。リコーダーについての姿勢と構え方、そして指遣いなどは、どちらも丁寧に説明されていますが、審議委員会からは、教育出版では運指表がとじ込みページになっているため、３年間使用することで破れるおそれがあるとの報告もあり、器楽の教科書は３年間使用することから、その点は心配であると感じました。両社ともに、教科書全体を通して、楽譜が大きく見やすいことと、扱っている和楽器などの演奏している写真が大きく、それぞれに基礎・基本の奏法の説明も丁寧に示されていることから、生徒にとって分かりやすいとの感想を持ちました。

私としては、小平の子どもたちにとって、どちらがより良いのかというところで迷うところですが、器楽についても、先ほどの一般と同様、扱っている曲が比較的易しく、学んだことが習得しやすいということ、また、生徒にとって馴染みのある曲を使っているなど、生徒の興味・関心をより引き出しやすく、学習効果がより上がるのではないかと判断し、教育芸術社の教科書が妥当であると考えます。

○三町委員

クロスになってしまいますが、教育出版の方がいいと思いました。報告書を見ますと、若干興味・関心を引き出すのが少ないというようなことが載っていましたし、和楽器の学習内容の配列についても載っていました。それに対して、教育芸術社の方が適切な評価をされていたようですけども、実際に音楽の授業は週に１時間、２・３年は１時間しかありません。１年生のとき４５時間ですから、一日１時間プラス何日間分という程度なので、歌を歌ったりすることで器楽の教科書は、かなり精選されて使われると思いました。

だから、配列はあまり影響しないということになってくるとありました。私も、教育出版のＱＲコードの内容については、なかなか聞けないものだから、ここからさっと聞ける。単に解説とか人物とかそういうものではなくて聞けるということでは、教育出版を挙げました。

○古川教育長

私は、指導要領にある、音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるという観点で検討いたしました。

結果としては、教育出版の「中学器楽　音楽のおくりもの」が良いと思いました。先ほど山口委員も話されたのですが、私も教科書を見て、笛は笛、弦楽器は弦楽器、太鼓は太鼓というふうにまとめて載っているので、あとはそれを使うだけの問題なので、並んでいる方が、子どもたちが見やすいと思いました。また、笛については、篠笛や尺八の吹き方が詳しく載っています。また、指孔の説明も分かりやすかったです。２７ページに「吹く楽器の仲間たち」というのが載っているのですが、多様な国の楽器が紹介されて、いいと思いました。あと、楽器の奏法を身につ

けるために、写真やイラストが大きく掲載されています。写真は、特に手元を大きく写し出しているので、ギターの右手の使い方とか琴の爪のつけ方とか、三味線の左手の構え方とか、ばちの持ち方が、すごく分かりやすいと思いました。また、５３ページにある「弾く楽器の仲間たち」では多様な国の楽器が紹介されていて、太鼓については、ばちの扱い方とか打ち方が詳しく載っている。最後の決め手は、二次元コード、活用しやすいと思いましたので、教育出版の方が技能を身につけるにはいいのではないかと思いました。

○森井教育長職務代理者

意見を申し上げるときにも、両者とても良い教科書で、甲乙つけがたい中で、私としては、少しこの点が優れているというところで教育芸術社の教科書が妥当であるという意見を申し上げました。ただ、皆さんおっしゃるように、ＱＲコードが充実している点など、実際に自学自習する中で、子どもたちの使い勝手という点や、先ほどの和楽器のことに関しても、より丁寧に取り扱われている点を考慮しますと、教育出版の教科書もいいという感想を持ちます。

○古川教育長

三町委員が、先ほど話された、クロスになってしまうという点はいかがなのでしょうか。

○三町委員

私も判断しかねていて、事務局の方で、同じ教科で編集の仕方とか扱いが違うものは、使い勝手として問題ないかどうか。分かる範囲で、教えてください。

○国冨教育指導担当部長

事務局の判断としてではなくて、一般的な感想ですけれども、デメリットの部分は、学び方の部分での取扱いが同じ教科の中で違いがある。先ほども、学びのユニットというような学び方が強調されている部分がありました。逆にメリットとして考えることもできないことはないと思います。多様な学び方を子どもたちが身につける機会にもなると思いますので、そこは指導の行い方でメリットにもなるしデメリットにもなると感じます。

○三町委員

クロスしてもいいと自分では思いました。

○古川教育長

それでは、よろしいでしょうか。

器楽に関しては、発行者名、教育出版、図書名「中学器楽　音楽のおくりもの」が妥当だと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に美術に移ります。美術について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

美術につきましては、表現及び鑑賞の活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中での美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することが目標に示されています。育成を目指す資質・能力に基づいた美術科の目標は、知識及び技能については、対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や考え方を深めたりすることができるようにすること。学びに向かう力については、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、美術の協議に入ります。美術につきましては、発行者３者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、開隆堂出版が「美術」、光村図書出版が「美術」、日本文教出版が「美術」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

ただいまご説明にもありましたが、学習指導要領で美術の目標としては、具体的には、一つは造形的な視点を豊かにするために必要な知識と表現における創造的に表す技能に関する目標。二つは、表現における発想や構想と鑑賞における見方や感じ方などに関する目標。三つは、学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関する目標についてとされています。また、美術科で目指す資質・能力の育成は、目標に示されている１、２、３が相互に関連し合い、一体となって働くことが重要であるとのことです。

１の目標にある技能については、３者ともに、１年生の教科書の中の「学びを支えるための指導」の中で丁寧に示されています。内容については、審議委員会の報告書では、開隆堂出版は、学習指導要領に基づき題材ごとに学習の目標を明示し、学習の目標と内容及び育てたい力との関連が明確になっており、光村図書は、単元ごとに目標が明記されており、表現と鑑賞の項目で共通事項が分かりやすく表記されています。日本文教出版では、生徒自身が進んで主体的な学びができるよう工夫されているとのことです。

また、構成上の工夫としては、開隆堂出版は、初めの部分に扉ページを設け、各題材の学習について、見通しと意義を理解しやすい構成となっており、光村図書は、特別な材料を使用せず、身近に感じられる題材設定と発達の段階に応じて生徒が工夫できる題材を設定しているとのこと。そして、日本文教出版では、発達の段階に即した題材が設定されており、３冊構成のため、１冊の重量は軽くなっているとのことでした。

教科書を手に取った感想としては、３者ともに表紙は美しく、また作品は、生徒作品を含め、生徒の興味・関心を引くものが多いと感じました。鑑賞の題材として印象的だったのは、開隆堂出版「美術１」の伊藤若冲の樹花鳥獣図屏風や光村図書「美術１」の風神雷神像と風神雷神図屏風と「美術２」のゲルニカ、日本文教出版の「美術１」の燕子花図と「美術２・３」の原寸大の浮世絵や火焔型土器などで、教科書であることを忘れるほどの美しさでした。

その中でも、光村図書「美術２・３」のレオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐にトレーシングペーパーで書き込みながら学習を進めたり、鳥獣人物戯画と手塚治虫の火の鳥を折り返しで比較したりするなど、製本を工夫することで効果的な学習が進められるよう配慮されている点は、画期的であると感じました。また、３者ともＱＲコードを活用し、学習をより深める工夫がされていますが、日本文教出版では、デジタルコンテンツが豊富で、生徒の興味・関心を引きつける工夫がなされています。

このように、３者ともにすばらしい教科書で、甲乙つけがたいところではありますが、市民アンケートでは、３冊になっていることで軽量に特化した日本文教出版の教科書がいいのではないかとのご意見もあり、私としては、日本文教出版と光村図書の２者を候補としたいと思います。

○山口委員

私は、３者見せていただいて、一番に日本文教出版を推薦いたします。実物の作品や建造物の色を忠実に表現しているかどうかという点においては、私はわかりかねるのですが、３者の中では最も印刷や色彩がきれいだと思いました。生徒の作品が多く、子どもたちにとっては、刺激や参考になると思いました。あと、デジタルコンテンツが豊富なところもいいと思います。日本文教出版だけが、学年で１冊ずつの３分冊で、学年が上がるごとに新しい美術作品と出会うという方式で、私は、この３分冊というのがいいと思いました。

光村図書は、森井委員からお話があったように、トレーシングペーパーを使ったり、紙質、つるつるしたのとざらざらしたのを使ってみたりですとか、学習や鑑賞を楽しむ工夫は一番いいと思ったのですが、２分冊で重いです。どちらかというと美術資料集のように見応えがあるのは光村図書で、授業をするなら３分冊の日本文教出版と思いましたので、私は一番に日本文教出版を推薦させていただきます。

○丸山委員

私は、どれも内容がすごく濃くて、甲乙つけがたいのですけれども、光村図書は、１年生の最初のページで、「美術って何だろう」という項目を設けて、小学校での図画工作科とのつながり

と、これから３年間でどういう学習をするのかというのを提示しているので、中学校で美術に向き合う心構え、見通しが立つので、良いと思いました。書中に素材が違う紙を使用して、触感の変化など、材質のことも、この美術では重要視されるので、そういう工夫が製本でされているのもいいと思います。ＱＲコードでの技法の実際の動画や鑑賞の補助になり得るような動画がリンクされていて、これも生徒がイメージしやすくなっていると思いました。

日本文教出版においても、私は、発色がきれいですし、いろいろな幅広く題材を取り扱っているので、とてもいいと思ったのですが、事務局に質問ですけれども、１、２、３というふうに３分冊で１年生、２年生、３年生にするわけではなくて、１年と、２年、３年の上下とするのは、何か理由があるのでしょうか。

○三町委員

２分冊、３分冊については、私も確認をしましたけれども、学習指導要領では、美術は１年生で指導する内容と２年、３年まとめてこういうものを指導すると書いてあります。準拠しているほうは、開隆堂出版と光村図書です。日本文教出版は、まとめてあるけれども、日本文教出版は２年生ではこれについてやりましょうと、ある意味、限定されています。そこの違いをどう評価するかということだと思います。

○丸山委員

ありがとうございました。

○三町委員

私は、光村図書がいいと判断しました。甲乙つけがたいところですが、使い勝手等もどこも悪くないし、それから冒頭の扱い、表紙と表紙の裏の内容。巻末は、光村図書の方が学習を支える資料だと思います。日本文教出版もいいと思いました。同じ言葉、学びを支える資料、両方とも同じ表現になっております。

鑑賞教材については、光村図書がかなり印象に残りました。鳥獣戯画の版画の紙質とか、風神雷神の絵が大きく、風神などの屏風を見ながら、音声ガイドで聞くという一つの方法として、学習が深まるような扱いになっています。それから最後の晩餐も、トレーシングペーパーで消失点を見つけるというような活動もあり、ゲルニカの表現も加わったようで、鑑賞教材は光村図書だと思いました。

それから、基本的表現と鑑賞に分かれていますけれども、学習の進め方として、光村図書の方が意図的に表現されています。表現という内容ではあるのですけれども、普通、授業で子どもたちに画かせたりするときも、まず、例えば先輩の作品とかいい絵を見て、鑑賞の視点でしっかり見てから、絵を描くという活動に入ります。出来上がったら、今度は相互鑑賞という見方でまた鑑賞する。そういう流れがはっきり書かれています。表現でありながら、最初に鑑賞をし、その上で表現活動に入り、そして鑑賞する。学校の先生がきちんとやる形を明確に、子どもが考えて

いく流れをきちんと表していて、他社と少し違うため、光村図書がふさわしいと感じました。

それから、２・３年で１冊の方が、私はいいと思いました。美術も週１時間ですから、どう教材を使うか教師が判断できます。１冊で２・３年がまとまった方がかえっていいと思うので、日本文教出版は、先生の扱いが限定的になってしまうということで、光村図書にしました。

○古川教育長

私は、学習指導要領にある、美術を愛好する心情を育み感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度を養うという観点で検討しました。

３者とも悩んだのですが、日本文教出版の「美術」がいいと思いました。最初のページにアニメーションのことが掲載されています。これは、生徒に興味・関心を持たせるきっかけになるのではないかと思いました。また６ページ、７ページに、「中学校美術の世界へようこそ」と、３年間で学習する内容や流れがよく分かるようになっています。生徒自身が進んで主体的な学びができるように工夫されていると思いました。私も、山口委員が話されたように、３冊になっている方が、題材設定が発達の段階に即して分けていると思いました。ワイド判で掲載している写真が大きいというのが、図版の美しさがより感じられるところです。市民の皆様からも、一番色が鮮やかで本物に近いという意見や、表紙も１、２、３で人物、風景、建造物というふうにバランスよく表紙も作られているというご意見もありました。それを考えると、日本文教出版がいいと思いました。

皆様のご意見から、発行者名、光村図書出版、図書名「美術」と発行者名、日本文教出版、図書名「美術」、この２者を候補として残したいと思いますが、よろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に保健体育に移ります。保健体育について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

保健体育は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが目標に示されています。育成を目指す資質・能力に基づいた保健分野の目標は、知識及び技能については、個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、健康についての自他の課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うこと。学びに向かう力については、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うことでございます。

〇古川教育長

ありがとうございました。

それでは、保健体育の協議に入ります。保健体育につきましては、発行者４者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい保健体育」、大日本図書が「中学校保健体育」、大修館書店が「最新　中学校保健体育」、学研教育みらいが「中学保健体育」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

〇山口委員

保健体育４者を見たのですが、それぞれ工夫もあり、大きな差が見られず、どの教科書でも安心して使っていただける印象でした。ほかの教科のように、ウェブコンテンツが充実している科目ではないのですが、自習自体は、４者とも教科書だけで十分行えるだけの情報量があると感じました。

４者の中で、本当に僅差なのですが、大修館書店を推薦いたします。表紙に雑多な感じはありますが、中身のバランスが一番良いレイアウトで、とても見やすいと思いました。ＳＤＧｓ、ＳＮＳなど、今の子どもたちが知っておくべき今日的なテーマに多く触れられている点がいいと思いました。あとは、がん教育についても、この教科書が一番充実していると思いました。各章のまとめが、定期試験の問題で出てくるような、そのままの形で書かれていますので、子どもたちにとっては、試験対策がしやすいと感じました。ページの一番下のところ、ウェブ保体情報館には、学習の参考にできる外部のサイトの紹介もありましたので、こういうところを見ると、子どもたちも学習がしやすいと感じました。

僅差ですが、もう一つ挙げるとしたら、大日本図書です。こちらも紙面がすっきりしていて、見やすいと思いました。「学習のまとめ」のところ、先ほどの大修館書店に比べると、試験対策という意味では、少し弱いと思ったのですが、保健体育という科目の性質上、繰り返し問題を解いて暗記していくというのではなく、全体像を重要語句とともにつかんでいくという勉強の仕方と考えると、困るレベルではないと思いました。

以上、二つ挙げましたが、どの教科書もすばらしいと思いましたので、どれでも安心して使っていただけると思います。

〇森井教育長職務代理者

中学校教科用図書審議委員会からは、どの教科書も、１時間の学習の流れが示されており、知識の習得だけでなく、課題を発見し解決する学習を進めることができるよう構成されている。さらに、重要語句がキーワードとして示されていることで、基礎・基本の着実な習得を助ける内容であるとの報告があります。

４者の見本本を見せていただきました。保健編の単元の「心身の発達と心の健康」の中の第二次性徴についてですが、東京書籍の２４ページの男女の図は、不適切であると感じました。また

大修館書店、３４ページ、３５ページについても、同様の感想を持ちました。２者ともに、審議委員会の報告では、内容に工夫は見られるなど一定の評価を得ていますが、私は、大日本図書と学研教育みらいはいいと感じました。

大日本図書ですが、口絵の部分で現代的な課題を取り上げ、生徒の興味・関心を高める内容が記載されています。各単元ともに、左半分は本文、右半分は挿絵や写真、図などの資料という構成になっており、紙面全体も大変見やすいと感じました。章ごとに、学習のまとめとして重要な言葉をまとめているのが特徴であると思います。

学研教育みらいですが、４ページの口絵の中に、「いつでも話せる相手がいます」として、思春期特有の悩みがあったときに相談する術を丁寧に紹介しています。また、１時間の学習の主な流れを「学習の目標」で身につけることを確認し、「課題をつかむ」で学習が始まり、「まとめる」「深める」で習得したことを確認するというシンプルな構成になっています。紙面は適度な余白があり、全体的にすっきりしていて、生徒にとっても分かりやすく見やすいと感じました。保健編の６章「健康と環境」では、生活排水の処理についても、１単元として丁寧に説明しています。

２者ともに、保健編５章で、感染症の予防については、その予防策もしっかり記載しており、今後もウイルスの感染拡大防止は必要となることから、保健の学習を通してしっかりと学んでほしいと思います。

体育編では、保健体育の目標である、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指し、スポーツの多様性や意義や効果、そして文化としてのスポーツの意義を学んだ上で行うことで、より豊かにスポーツを実践できるような内容になっています。スポーツに親しむための基礎的・基本的な知識及び運動や健康、安全についての理解を深めるための内容も分かりやすくまとめてある点も、良いと感じた理由です。

以上のことから、私といたしましては、大日本図書と学研教育みらいの教科書が妥当であると考えます。

○丸山委員

私も、結論から言いますと、大日本図書がいいと思います。保健体育は、３年間で１冊なので、章立てがどの本も分かりづらいのですけども、この大日本図書というのは、口絵にて３年間の道筋が明記されているので、とても分かりやすいと思いました。口絵のイメージや１時間の学習の主な流れや学び方も明記されているので、さらに各章ごとにもまとめがあるという点も、学びやすいと思います。ＱＲコードでリンクし問題にも取り組めるのは、習熟度を図る上でも便利だと思います。

○三町委員

私も、今話聞いていて、揺れてしまいましたが、大修館書店と学研教育みらいです。ただ、森

井委員がおっしゃった３５ページの図は、今見たら、確かにやや立体的な絵です。東京書籍については、それでかなりポイントを下げたので、大修館書店にしていいのか、気にはなっているところです。あとで判断したいと思います。

ただ、内容的には、他の２者と比べても、大修館書店、学研教育みらいとも、性とどう向き合うかというところで調べてはみたのですけれども、例えば、そういう性についての悩みに対して、きちんと大修館書店と学研教育みらいはＱ＆Ａとかカウンセリングということで、答えてくれている。それに対して残りの２者は、何か悩みがあったときに、アドバイスはどうしましょうかと、子どもたちにアドバイスをさせるような投げかけです。これは、きちんとした情報を与えて、方向性を出したほうがいいのではないかということで、ここで差が出ていると感じました。

それから、同じように性との関係で性被害についても、大修館書店と学研教育みらいは、例としても、自撮りの性被害についてはっきり書いてあって、それに対して危険だというようなことをはっきりと打ち出しています。大日本図書にはなかったです。東京書籍には少しありました。

それから、がんについて、東京書籍、大修館書店、学研教育みらいは、しっかり書かれています。今の森井委員の話から、学研教育みらいの一つに、私はさせていただきます。

○古川教育長

私は、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するという学習指導要領から考えて、自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するという観点で検討いたしました。

結果としては、学研教育みらいの「中学保健体育」が良いと思いました。１０ページに、「この教科書の使い方」というので、教科書の構成と学習の流れが図で分かりやすく載っています。また、１時間の学習の流れも、目標を確認し課題をつかみ、考えたり調べたり話し合ったりして課題を解決すると。そういう流れになっています。章末の「章のまとめ」で学習の振り返りと自己評価ができるようになっています。それに、がんについての学習が充実しています。喫煙の害についても、イラストや図などで分かりやすく載っています。また、４３ページに、ＬＧＢＴのことについても取り上げているのも良いと思いました。結果として、学研教育みらいが良いと判断いたしました。

○山口委員

森井委員からの指摘があった男女の生殖器の挿絵ですが、私は、よりリアルに描かれていることをデメリットと捉えませんでした。子どもたちにきちんと知っておいてもらう方が、今の子どもたちにはむしろメリットだと捉えていたのですが、皆様のお話を聞いて、ここに引っかかる方が多いということなので、大修館書店は下げても構わないと思います。

○三町委員

学習の流れについて、触れさせていただきますけれども、学習の流れとして見たときに、大日

本図書は気になりました。といいますのは、大日本図書だけが、「つかもう」から「話し合ってみよう」という項目に入ります。年間で保健分野は十何時間しかありません。そうすると、それを話し合いがメインの教科書、資料を見て話し合うことで学習させていくというのが本当に正しいことなのか。指導法として、毎回この形で書かれているというのはどうなのかと疑問を持ちました。もし残るようであれば、実際に指導する側の立場で見て検討していただけたらという考えで付け加えさせていただきます。

○古川教育長

ほかの委員の方、何かございますか。

それでは、保健体育につきましては、発行者名、大日本図書「中学校保健体育」、発行者名、学研教育みらい、図書名が「中学保健体育」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

次に技術・家庭に移ります。技術・家庭について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

技術・家庭は、生活の営みに係る見方や考え方、技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する資質・能力を育成することが目標に示されています。育成を目指す資質・能力に基づいた技術分野の目標は、知識及び技能については、生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めること。思考力、判断力、表現力等については、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うこと。学びに向かう力については、より良い生活の実現や持続可能な社会の構想に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことでございます。

次に、家庭分野の目標は、知識及び技能については、家庭の技能についての理解を深め、家族、家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、家族、家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うこと。学びに向かう力については、自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、より良い生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を

養うことでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、技術・家庭の技術分野の協議に入ります。技術分野につきましては、発行者３者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい技術・家庭　技術分野　未来を創るTechnology」、教育図書が「New技術・家庭　技術分野　明日を創造する」、開隆堂出版が「技術・家庭　技術分野　テクノロジーに希望をのせて」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○三町委員

結論で言いますと、東京書籍、開隆堂出版という順番になりました。特に技術・家庭科の授業そのものが、１・２年生は、技術も週１時間程度、３年生は、週０．５時間となり、年間でいうと半分ぐらいしかありません。少ない時間数の中で進めていくというところで、コンパクトにまとめていなければいけないのだろうと思いますから、先生方が選んで指導する部分もあるということを頭に置きながら見ていきました。

その中で、まず作りとして見たときに、巻頭の流れで言うと、技術分野のガイダンスとか技術的な見方・考え方など教科書もある程度書いてあるわけですけれども、東京書籍が書きぶりとしては、子どもが見たとき分かりやすいというのを感じたところです。

それから、内容的に情報の分野とエネルギーの分野とか、それぞれによって扱いが違うことなのですけれども、エネルギー分野の扉のところが、東京書籍は、教育図書や開隆堂出版に比べて、内容的にエネルギーのイメージとして弱いと思いました。ただ、実際に学習の流れが、東京書籍と開隆堂出版はある程度、流れとして自然でした。学習する分には、「見つける」「学ぶ」「振り返る」。それから、実習的な内容については、「見つける」「作る前に作ってみよう」そして「振り返る」「発表」という流れで。教育図書は、章ごとによって違います。「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」。最後は「生活に生かそう」。全て「生活に生かそう」と書いてあるのですけれども、内容を見ていて、小項目の内容で「生活に生かそう」というのは、場合によっては無理があると思います。

もう一つ、巻末は「今すぐできるプログラム手帳」とか、教育図書はノートがあります。それから、開隆堂出版はコンピュータの基本操作がありました。中学校技術というのは、プログラミング教育が重視されています。どの教科書を使うのが一番学校で使いやすいのかというのは、正直分かりませんでした。報告書の中でも全く出ていないですし、学校の先生は、別な副教材としてキットか何か買うのかとも思いました。移行措置期間に先行実施している中で、もうすでに、プログラム言語も準備しているから大丈夫だという、いい意味で捉えました。実習例が一番多いのは東京書籍でした。そして、次に、プログラム手帳とか、開隆堂出版のコンピュータの基本操作、そういうのが有効かと思いました。ノートは実習のとき使いやすいとありましたが、いちい

ちのこぎり使うときノートを持って作業するとは思えませんので、私は高くは評価しませんでした。そのほか、技術の安全とかエネルギーに関わること、防災関係、こういうところも東京書籍、開隆堂出版という順番がつきました。

○丸山委員

私も、東京書籍を挙げました。ページ構成がすごくシンプルで見やすいということ。図や写真も多くて、調査報告書にもありますけども、実習の流れが分かりやすく、具体的な図というのも多く挙がっているので評価しました。巻末には、ＳＤＧｓとテクノロジーというページ等もあって、テクノロジーという観点からＳＤＧｓを見ていて、そういうのも有効と思いました。

○山口委員

私も、一番が東京書籍、二番で開隆堂出版です。丸山委員からもお話がありましたが、東京書籍は、最も内容がすっきりしていて、要所要所に重要語句がまとまっているところがいいと思いました。内容が一番基礎的、実践的という印象を受けております。各章の最後に学習のまとめがあり、テスト対策や自習も子どもたちはしやすいと思っています。コンピュータの基本操作部分、先ほど三町委員からもお話がありましたが、大差がないのですけれども、どちらかというと東京書籍の方が、実践に生かせるような内容が多いという印象を受けますので、私はここをプラスの評価にしました。

開隆堂出版は、紙面も本当に見やすかったです。ただ、東京書籍に比べると、扱う内容が高度だと思っています。情報が一部のところで多くて見にくいところがありましたので、一番は東京書籍、二番は開隆堂出版を私は推薦したいと思います。

○森井教育長職務代理者

３者の教科書を見させていただきましたが、技術の教科書は、これからの社会を生きていくために必要な知識と力を養うための教科書であることを改めて感じました。技術にとって、ものづくりは基本であると言えます。そのためには、基礎技能を習得するための工程が分かりやすく示されていることが重要です。

私は、３者の中では、開隆堂出版が丁寧に示されていると思いました。動作のポイントや参考に示されている内容も、技能を定着させるのに大変役立つこと、併せて「安全」として、作業を安全に進めるための注意喚起も適切に促されています。また、目次に技術分野の目標をしっかり提示し、学習の流れや、生活や社会における技術の役割を生徒が自覚を持って学習に臨めること。作業の安全として、学習の際の危機管理をしっかり身につけることができることなどからも、大変良い教科書であると思いました。先ほど来出ております、巻末資料のコンピュータの基本操作とプログラミングは、これから求められる力の育成に大いに役立つものであると思いました。

審議委員会からの報告では、東京書籍、教育図書ともに内容、構成上の工夫、また総合的な所見において、評価すべき点が挙げられていましたが、私は開隆堂出版を候補としたいと思います。

○古川教育長

学習指導要領による、技術に関わる問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力を養うという観点で検討いたしました。

その結果、東京書籍と開隆堂出版で悩みました。結果的には、開隆堂出版が良いと思いました。巻頭にある「技術分野の学習を始める前に」が、生徒が興味・関心を持って主体的に学ぶ意欲につながるように感じました。次のページに「作業の安全」が載っています。安全・安心を大事にしていることが伝わってきました。ガイダンスのページが充実しており、今までの技術がどのように受け継がれてきたのか、改良されてきたのかなど、これからの学習に生徒が目標を持って取り組めるように工夫してあります。四つの内容に分かれているのですが、その編ごとに、最初に大きな写真が載っています。生徒に興味を持たせ、そして、１時間ごとに学習の目標が示されているので、「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」と、本人の活動が分かるようになっています。問題解決の流れとして、ＰＤＣＡサイクルの考えに基づいていること、その確認している点もいいと思いました。編ごとの終わりには「学習のまとめ」があって、しっかり自己評価をしながら学習を振り返ることができるようになっています。先ほどから出ている情報とコンピュータの説明は、私は開隆堂出版が丁寧だと思いました。生徒にとっても分かりやすいと思います。特に情報セキュリティーと情報モラルについて詳しく説明しているのが、これからの学習では大切なことだと思いました。全体的に写真やイラストが大きくて、大変見やすく、ページの下には、豆知識で道具や用具について補足している説明があります。ちょっとした工夫ですが、右ページの上のところに、小さな道具の写真と名前が載っているのも楽しい工夫だと思いました。結果的には開隆堂出版を候補として選びました。

○三町委員

先ほど私、順位をつけて、東京書籍がいいと言いましたが、開隆堂出版の良さを、話聞いていて、自分で評価した部分と違うところもあり、評価が変わってくるところがありまた。開隆堂出版でもいいという気になりました。だから、東京書籍を消して、私は開隆堂出版１本でもいいと話聞いていて思いました。

○古川教育長

それでは、技術家庭の技術分野につきましては、発行者名、東京書籍「新しい技術・家庭　技術分野　未来を創る Technology」と発行者名、開隆堂出版、図書名「技術・家庭　技術分野テクノロジーに希望をのせて」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

続いて技術・家庭の家庭分野の協議に入ります。家庭分野につきましては、発行者３者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい技術・家庭　家庭分野　自立と共生を目指して」、教育図書が「New 技術・家庭　家庭分野　くらしを創造する」、開隆堂出版が「技術・家庭　家庭分野　生活の土台　自立と共生」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。

○森井教育長職務代理者

技術・家庭科、家庭分野の改訂の要点としては、家族、家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進行、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することや、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができる資質・能力の育成を目指しており、目標とする資質・能力については、実践的・体験的な活動を通して、家族、家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身につけるとともに、生活の中から問題を見出して課題を設定し、それを解決する力や、より良い生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方としています。

それらも踏まえ、３者の教科書を拝見させていただきました。３者ともに、中学校３年間の使用に耐え得る作りになっており、大判の紙面を活用して、写真やイラストを効果的に用いて視覚的に生徒が興味・関心を持てるよう構成されています。その中で、重さを軽減した紙を使用している開隆堂出版が、５６６グラムと最も軽量でした。教科書の内容については、３者ともに生徒が意欲的に取り組めるよう、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得のために、調理の基礎技能、制作の基礎技能のページは充実しており、安全面と衛生面にも注意が払われています。また、ＳＤＧｓとの関連を明確に示し、持続可能な社会を目指す地球的課題を意識した構成になっているものもありました。さらには、ＱＲコードにより作業の様子などを見ることができるのも、今回の教科書の大きな特徴であると言えます。

以上のことに加えて、教科用図書調査委員会並びに審議委員会報告書を考慮し、私は、開隆堂出版の教科書が妥当であると考えます。まず、開隆堂出版の教科書は、紙面に余裕があり、全体的に見やすく、写真等を効果的に使っていることから、生徒にとって学習の流れが分かりやすい構成になっている点が良いと感じました。また、「小学校での学び」として、小学校で積み重ねてきた学習のつながりが示されていることで、学びの連続性や基礎・基本の学びが既習事項と関連していることを生徒に学ばせることができます。また、「話し合ってみよう」「やってみよう」など、学んだことを生徒自身が実践できるような仕組みが随所に設けられています。昨年、小学校家庭科で開隆堂出版の教科書が採択され、私が開隆堂出版の教科書を良いと思った理由の一つは、中学校技術・家庭科、家庭分野の学習のつながりを明確に示していることで、学習の系統性を生徒に示すとともに、生活をより良くしようと工夫する資質・能力の育成に寄与するものであるということでした。

学習指導要領において、指導内容の示し方の改善として求められるものの中に、小・中・高等

学校の内容の系統性の明確化があります。児童・生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「家族、家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活と環境」に関する三つの枠組みに整理することが適当であり、この枠組みは、「生活の営みに係る見方・考え方」も踏まえたものであるとされています。この点から見ると、前回の採択の際、東京書籍の内容が学習指導要領の配列とは異なることに関して、授業を進める上で特別な配慮は必要ないとの事務局からの説明もあり、採択に至ったのですが、今回は、小・中・高の連続性を考慮する上で、必要性を感じています。

また、開隆堂出版の教科書は、審議委員会からの総合的な所見の中に、基礎的・基本的な技術が身につけられるよう、過不足なく掲載している。また、主体的、対話的な深い学びを進めるための工夫をしており、学習を生活に生かす題材が豊富であるとの意見もあり、家庭分野の目標に合致した教科書であると感じました。

家庭科の教科書については、毎回感じることですが、生活する上で必要な内容はほぼ網羅されており、生徒にも一生手元においてほしいと思っています。開隆堂出版の教科書は、巻末の２７８ページにある「学んだことを次に生かそう」の中で、家庭分野で学んだことを次につなげ、どのように生かしていくかを示してある点からも、小平市の中学生に学ばせたい教科書であると思いました。

○山口委員

先ほどと同じ３者ということで、私も、開隆堂出版と東京書籍で迷ったのですが、こちらは一番に開隆堂出版を推薦いたします。紙面がやはり一番見やすいです。教科書内に直接書き込みをするような問いかけや余白があり、子どもたちの主体的な学びにつながりやすいと思いました。全体的に使われている写真や挿絵が子どもたちの実生活や実際の感覚に一番近いという印象を受けています。森井委員からお話がありました、学びの連続性、小学校、中学校の学びの連続性という意味でも、一番いいと感じました。デジタルコンテンツが充実しています。例えば２２５ページ、衣食住の単元、「先輩からのエール」ということで、社会で活躍している方のインタビュー記事が教科書に載っているのですが、そこのＱＲコード読み込みますと、教科書に載っているその方が動画になって登場しています。このように、教科書に掲載されている資料や写真が、そのままの形でデジタルコンテンツに反映されている点は、先生方、子どもたち双方にとって扱いやすく、生かしやすいのではないかと思って、ここを大きなプラス点にしております。

以上の理由から、開隆堂出版を一番に推薦いたします。

○丸山委員

私も、この３者でとても迷って、東京書籍と開隆堂出版を挙げました。東京書籍は、技術同様、ここの家庭科においても、巻末でＳＤＧｓについてのページがあります。環境についてとか、私たちの生活のやり方次第で変えられるという認識を持たせることができるので、いい項目だと思っています。ただ、この開隆堂出版に関しても、お手本的なことは確実に抑えていますし、シン

プルで、実際に書き込みをさせて考えさせるというページがありますので、第一に私は東京書籍を挙げましたが、開隆堂出版も、皆さんのお話を聞いていて、甲乙つけがたく、今悩んでいます。

○三町委員

結論から言いますと、東京書籍と開隆堂出版の二つで、どっちになってもいいという気持ちではあります。内容的には、それぞれ特徴があると思いますけれども、ガイダンスのところでは、東京書籍が分かりやすいという気がしました。それから、学びやすさの工夫とか学習のまとめとか配列も、東京書籍の方がいいという思いがしました。報告書の中で、調理のときの右利き、左利きと両方の写真を掲載しています。私、左利きなので、そういう配慮ある教科書にぜひしたいと思いました。どの教科書会社も左利き、少数者に対する配慮があるということで、評価を下げる必要はない思いました。学習の内容については同じでした

○古川教育長

私は、学習指導要領による、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるという観点で検討いたしました。

東京書籍と開隆堂出版で悩みました。結論的には、開隆堂出版の方が少しいいと感じました。というのは、１時間ごとに学習の目標が示されていて、何を学習するのかよく分かります。それから、小学校の学びというのが載っていて、小学校からの学びとどのようにつながりがあるのか表している点がいいと思いました。最初に家族、家庭生活を学ぶようになっているのも、配列的にもいいと思いました。随所に「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」を囲み記事で掲載していて、主体的、対話的な学習になるように工夫してあります。また、５８ページにＬＧＢＴの記事、１７３ページに、女子用制服にパンツスタイルをという導入の記事を載せるなど、差別や偏見なく自分らしく生きられるように、多様性を尊重していることが伝わってきました。各編の最後の単元が、持続可能な社会、全てそういう構成になっていて、ＳＤＧｓとの関わりを学習するように載っています。社会における地球的課題を意識した構成になっています。また、巻末にある「生活の課題と実践」は、３年間の学習のまとめとして振り返るのにいいと思いました。それから、二次元コードですが、作業の様子を動画で見ることができます。たくさんのページに二次元コードがついており、先ほど来話が出ている、包丁を使っての作業などもあって、野菜の切り方に左利き用の動画も用意してあります。これは多様性に配慮していると感じました。結果的には、僅差で開隆堂出版を選びました。

○三町委員

開隆堂出版であれば、映像でもしっかりと配慮されているということも含めて、私は開隆堂出版を第一にしてもいいという思いもあります。

○丸山委員

三町委員と同じです。開隆堂出版を第一にしたいと思います。

○古川教育長

ありがとうございます。

５人の意見がそろいましたので、技術・家庭、家庭分野については、発行者名、開隆堂出版、図書名「技術・家庭　家庭分野　生活の土台　自立と共生」を候補にしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

ありがとうございます。

次に外国語に移ります。外国語について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

外国語につきましては、外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが目標に示されています。育成を目指す資質・能力に基づいた外国語の目標は、知識及び技能については、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにすること。思考力、判断力、表現力等については、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養うこと。学びに向かう力については、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、外国語の英語の協議に入ります。英語につきましては、発行者６者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「NEW HORIZON English Course」、開隆堂出版が「SUNSHINE ENGLISH COURSE」、三省堂が「NEW CROWN English Series」、教育出版が「ONE WORLD English Course」、光村図書出版が「Here We Go! ENGLISH COURSE」、新興出版社啓林館が「BLUE SKY English Course」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

ただいま事務局の方からご説明をいただきまして、少しかぶるところもありますが、ご了承ください。

中学校学習指導要領の外国語の目標は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で、１、各学校段階の学びを接続させるとともに、２、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという視点から、改善・充実が図られています。外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身についたかに主眼が置かれるのではなく、児童・生徒の学びの過程全体を通じて、知識、技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考、判断、表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要であるため、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するに至る段階を示すものとして、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域で英語の目標を設定しています。また、教科書の改善に向けて、教材の中で五つの領域別の目標と言語材料や言語活動との関係を単元ごとに記すよう明記してあります。

このことを踏まえて、６者の教科書を見せていただきました。どの教科書も巻頭に説明があり、５領域をバランス良く学べるよう工夫されています。また、イラストや写真、余裕のある紙面が多く、生徒にとって、分かりやすく見やすいと感じました。各者が取り入れているＱＲコードは、各単元の新出語句と本文の音声が聞けることから、生徒が自宅で主体的に学ぶことができます。各者とも良い教科書で、甲乙つけがたいところですが、私は、審議委員会の報告の中で、ゆとりをもって学習できるということに着目しました。

三省堂の調査報告として、内容が多く詰め込まれていないので、ゆとりをもって指導を行うことができる。発展的な学習へも展開していきやすい。光村図書については、無理のない自然な流れで、文法の説明も良い。どの学年も内容にゆとりがあり、余裕をもって授業を組み立てることができる。どの学年も無理なく学ぶことができる分量である。段階的に指導できるとのことでした。また、２者において、別の観点からの報告によると、三省堂には、文字のポイントが大きく見やすい。日本の漫画やアニメ等の身近なものから異文化理解、平和学習等、生徒の興味・関心を引きそうな内容である。光村図書では、単元の初めに GOAL が示してあり、生徒の学習の目標が意識しやすい。教科書本文の内容が、入学から卒業までの３年間を通した学校生活の物語となっているとの報告がありました。私も、光村図書の教科書で、このことが他者にない特筆すべき点であると思いました。生徒が中学校３年間の物語を通して、自分の成長に重ねて興味を持って学べる教材であると感じました。そして、このことが、先ほど述べた生徒の学びの過程全体を通じて知識、技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考、判断、表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要であるという目指す外国語の目標が、３年間の連続した物語を通して、自分事として学ぶことで達成できるのではないかと考えました。

小平市の中学生に、単なる知識の積み重ねだけでなく、場面に応じた生きた英語の力を養うことにつなげてほしいという願いを込めて光村図書、そして、同様に英語の使用場面を細かく設定し、生徒がどのようなときにその表現を使うのかが分かりやすく、目的意識を持ちやすい構成であるとの報告のある三省堂も、生きた英語力を養うための優れた教科書であると判断し、光村図書、三省堂を候補としたいと思います。

○三町委員

我々の時代の英語とは違います。我々の時代の英語を使う目的は、主に外国の文献にあたって、そこから学習して、それを活用するという時代でしたが、その逆で、いかに人とつなぐためにコミュニケーションを図るか、また、話すことについて単なる簡単な会話の部分もあれば、きちんと説明できる力、分けて指導されているのを見て、今の英語教育について感心しておりました。

その中で、東京書籍と三省堂と光村図書、三つ候補として挙がりました。

例えば報告書の中にも、５領域のバランスがいいというようなことが書かれている三省堂、光村図書の場合は、登場人物が一貫して１年生から３年生まで、ずっと同じ人物で、その中の関わりから世界まで広げていくという、そういうストーリーがあり、その分だけ、現代的な課題について、一見踏み込みにくくなる部分もあるのかと思いますけれども、扱っていることは扱っているので、この一貫したストーリーもいいと思いました。東京書籍のいいと思うところは、ポイント的にバランスが取れているということと、ＱＲコードの使い勝手がいい印象がありましたので、三つ候補を挙げました。

ただ、皆さんからもお聞きしたいのですけれども、市民の話の中で、三省堂の絵に鼻がないとあったので、実際見たら、確かにありません。似たような絵の表紙になっている教育出版は、きちんと小さくても書かれています。こういうことは、確かに配慮しなければいけないという悩みもありました。そういったことを含めると、東京書籍と光村図書になります。ここでまた皆さんのお話を聞きながら判断したいと思いますけれども、３者を候補に挙げておきました。

○丸山委員

私は、市民アンケートでサムズアップなどのハンドジェスチャーの表現が書かれている教科書が幾つかあるということで、実際にハンドジェスチャーによって身の危険が起きている状況を鑑みると、この現代において、日本でだけ通じるようなハンドジェスチャーが書かれているような表現は、どうなのかというふうに考えました。

教育出版や三省堂は、比較的そういうことが書かれていないので、この二つを見ました。教育出版は、最初のページで１年間の流れというのが分かるよう表記されていまして、デジタルコンテンツで会話本文を聞くこともできるので自学自習においても意味があるものだと思っています。巻末には単語のリストもありますし、チェックシートを使って、自習の補助になるという意味では、使い勝手がいいと思います。内容も、いろいろな話題が豊富で、そういう意味でも生徒の学習意欲を高められるのではないかと考えました。視覚的にもシンプルな構成だと思います。三省

堂も、イラストであるとか、カラーリングという面では、生徒に親しみやすいとは思うのですけれども、デジタルコンテンツは単語のみ発音が主流になっている。また、教科書の構成としても、設問が少し分かりにくいので、授業中に混乱も多少あるのではないかという懸念があります。調査報告では、教育出版は、第１学年は内容的にやや多いとか、表現の分量が少ないというのはありますけれども、教育出版を選びました。

○山口委員

私は、先ほど三町委員からお話がありました、これからの英語と今までの日本の学校英語という区分で分けたときに、これからの子どもたちにという視点から、教育出版と三省堂を選びました。光村図書、東京書籍も、教科書の内容的には良いと思いましたが、英語の質、表現の仕方など細かいところが、これまで長きにわたって行われてきた日本の学校英語の教科書的な印象です。もしかしたら、キャリアの長い先生方にとっては、光村図書や東京書籍の方が使い勝手がいいのかと考えたのですが、これから将来的に子どもたちが身につけていくべき国際感覚やコミュニケーション能力を学ぶという点で、私が一番に推薦するのは教育出版です。ＳＤＧｓの取扱いや即興的に使える英語としての学習、文章中で扱っている内容が、将来子どもたちが世界に出ていくことを意識した内容であることがいいと思っています。

先ほどからも出ておりますハンドサインですが、２年生のレッスン９、写真で日本人がＶサインをしているところがあって、これがほかの国では侮辱的な気をつけるべきジェスチャーであるということを扱っています。このＶサイン以外にも、親指を立てたりする絵が、光村図書、東京書籍では、日本人的な感覚で使っているのに対し、教育出版は、各国で理解が分かれるところなので気をつけましょうということが明確に書かれており、とてもいいと思いました。

教育出版の巻末の「アクティビティプラス」は、重要単語や表現がまとまっていて、赤シートで隠しながら学習ができるようになっているので、子どもたちにとってはテスト対策がしやすいと思いました。教育出版は、紙面が見やすかったです。小学校の英語が教育出版を採用しておりますので、そちらとの連続性を考えて、中学校でも教育出版がいいと思いました。

二番目は三省堂です。新しい英語ということで三省堂も候補に挙がるという印象です。一番は教育出版ですが、三省堂のいいところは、森井委員から話がありましたが、年間指導時数に対して７割程度の余裕を持った分量であるというところです。英語に関しては特にですが、デジタルコンテンツやタブレットを積極的に使っていく学習スタイルにこれからなっていくと思いますので、それを試行錯誤する期間としては、時数的な余裕があるほうが、先生方の選択の幅、挑戦できる幅が広がる印象を受けました。したがって、一番が教育出版、二番が三省堂、２者挙げさせていただきました。

○古川教育長

ありがとうございました。

私は、学習指導要領にある、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活

動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するという目標に活用しやすいものはどれかという観点で検討いたしました。

二つに絞ったのですが、その中でも、三省堂の方が良いと思いました。というのは、１年の教科書は、イラストが大きくて英文がそれほど多くありません。無理なく、抵抗なく学習に取り組めます。内容も、身近なものから異文化理解、平和学習など題材が多岐にわたっているもの、そして、英語の使用場面が細かく設定されていて、生徒がその表現をどのような場面で使うのか、分かりやすくなっています。巻末にある「発展的な学習」も、生徒の興味・関心を引く内容となっています。特に決め手になったのは、３年の教科書に、ローザ・パークスやキング牧師などの人権について学ぶ配慮、そして、付録にはスティーブ・ジョブズやココ・シャネル、マザーテレサの言葉も載っています。そして、「ハゲワシと少女」という写真も載っています。この写真については、いろいろな意見があり、ぜひ中学３年生になって、考えてほしい問題提起だと考えます。このように扱っている題材が多岐にわたっていて、生徒の興味・関心を引きやすく配慮しています。また、二次元コードの横には、「words」とか「read」とか表示がされていて、単語の発音なのか英文を聞くことになっているのか、それが自分で選べる配慮もしてあるので、最終的にはこの三省堂がいいと思いました。

○三町委員

東京書籍は、ほぼ同じだったのでなくしていただいて結構です。三省堂と光村図書が少し引っかかっているのは、表紙の絵です。光村図書を１位にしなければいけないかと個人的には思っていますけれども、ただ、皆さんがそれについてはそんなにこだわる必要はないのではないかということであれば、三省堂も、話を聞いていていいという気にはなりました。

○森井教育長職務代理者

私は、内容については光村図書がいいと思っています。

○古川教育長

皆様のご意見から、外国語の英語につきましては、三省堂の「NEW CROWN English Series」、教育出版の「ONE WORLD English Course」、光村図書出版の「Here We Go! ENGLISH COURSE」、この３者を候補として残すということでよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

最後になります。道徳に移ります。道徳について、事務局から説明をお願いいたします。

○国冨教育指導担当部長

特別の教科道徳は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが目標として示されています。特別の教科道徳に改正されたことで、いじめの問題への対応や発達の段階を一層踏まえた体系的なものとする観点から、道徳的な課題を生徒が自らの問題と捉え向き合う考える道徳、議論する道徳へと指導方法を工夫することが示されています。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、道徳の協議に入ります。道徳につきましては、発行者７者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新訂　新しい道徳」、教育出版が「中学道徳」、光村図書出版が「中学道徳」、日本文教出版が「中学道徳　明日を生きる」、学研教育みらいが「新・中学生の道徳　明日への扉」、廣済堂あかつきが「中学生の道徳」、日本教科書が「道徳　中学」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

学習指導要領における道徳科の目標は、「より良く生きるための基盤となる道徳性を養う」であり、従前の「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める」ことを、学習活動を具体化して「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」と改め、さらに、これらを通じて、より良く生きていくための資質・能力を培うという趣旨を明確化するために、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められました。

今回、７者から見本本が提出されたわけですが、どの教科書も、読み進めていくと、感動教材や考えさせられる内容の教材が多く、特別の教科道徳に求められる、より良く生きる基盤となる道徳性を養うための教科書であることを踏まえ、生徒にとっても、そして指導する教員にとっても、今回採択される教科書は重要であるとの感想を持ちました。

私の考える生徒にとって良い教科書とは、まず教材を通して生徒自身が考えを深められるような導入が分かりやすく示されていることと、人それぞれの考えがあり、多様な意見を取り入れることで自分を見つめ、自分事として考えを深めることのできる教科書であると考えます。

７者ともに、導入部分がありますが、光村図書の「本書で学ぶ皆さんへ」と「道徳の授業を始めよう」と、廣済堂あかつきの「道徳の時間とは」、１年は「自分を見つめよう」、２年では「自分を考えよう」、３年では「自分を伸ばそう」とし、それが学年ごとの教科書の副題になっていますが、２者ともに分かりやすい印象を受けました。また、題材の内容に加えて、効果的に挿絵や写真などを配し、生徒の興味・関心を高めるような工夫は、どの教科書にも見られました。指導する教員にとっては、学習指導要領に基づき、内容は正確かつ公正であることはもちろんで

すが、生徒の発達の段階に応じた分量であること。学習が効果的に進められるような配慮や工夫のあること。スムーズに授業を進めることができる導入であること。そして、授業を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる道徳の実践が可能となることなどが挙げられると思います。

そのような観点と中学校教科用図書審議委員会からの報告書や東京都教育委員会の教科書調査研究資料、そして市民アンケートも参考にさせていただいた上で、私は、東京書籍、光村図書、廣済堂あかつきの教科書が妥当であると考えます。

まず、東京書籍は、巻頭の「話し合いの手引き」「道徳の時間はこんな時間」によって、話し合いの方法や授業の進め方についてイメージを持つことができ、また、他教科との関連が表示されていて横断的に学びやすい。また、ルビが適切に補足されており、生徒にとって分かりやすい。そして、いろいろな題材が取り上げられていて、生徒の興味を引く構成になっているが、書き込み部分が多く、ワークシートとの兼ね合いや書き込ませた場合のチェックなどに工夫が必要であるとの報告があります。

光村図書は、生徒の発達の段階に応じた教材を扱っており、付録も補助教材が充実しており、内容項目をより深めることができる。また、教材タイトル下にあるＱＲコードは、朗読や資料の提示などのデジタルコンテンツにアクセスでき、導入で視覚的な内容を提示することで、内容が理解しやすく、より深く目当てに迫っていける工夫があるとのことです。ワークシートを都度用意する必要があるが、授業者によって柔軟に取り扱うことができるとのことで、教員の指導力が必要になると思われます。

廣済堂あかつきは、１学年は、本文の文字を大きくしてあり、ＡＢ判のため体裁が大きい分、生徒にとって読みやすい。別冊ノートがあるため分厚いが、生徒の学びの軌跡を継続的に確認することができる。これまで道徳が大切にしてきた感動教材や名作教材を中心に、現代的な課題に目を向ける教材が厳選され、特に「生命尊重」と「いじめ防止、人権尊重」を重点的に扱えるよう、全体的に良く構成されているとの報告がありました。

これらの報告をいただき、それぞれ教科書を再度読ませていただき、どの教科書も、一教材あたりの分量は生徒の発達の段階に応じたものであるものの、単なる読みものではなく、その教材から考え議論する時間を確保し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを求められる教科書選びの大変さを改めて感じました。３者を候補といたしましたが、私が候補とした教科書以外にも、皆様方それぞれの視点からのご意見を伺わせていただき、採択の参考にさせていただきたいと思います。

〇三町委員

教科書会社も大変多いので、これも細かく項目でチェックしました。サイズの問題とか、目次等での学び、冒頭の扱い、それから題材に対してどういう扱いになっているか、ノートの有無が適正かどうか、それから振り返り、道徳の評価はどうしているのか、いろいろな諸課題、その扱い、そういう観点でポイントをつけていきました。光村図書が一番で東京書籍が二番になりまし

た。ノートについて、日本文教出版は、単なるノートではないかという印象が強いです。教科書の本文のQがそのまま書かれています。先生のノート指導できちんとすれば済むことで、あえてある必要があるのか。それから、廣済堂あかつきは、道徳の内容項目ごとにまたくくられているので、どう使うかかなり考えなければいけません。これは使いにくいノートだと思いました。ただ、振り返りの評価がそっちに入ってしまっているので、どうなのかということはあります。まず、ノートについての評価です。

それから、差が出たのは、一つは題材冒頭の扱いです。子どもが学ぶには、どういう形の提示がいいのかということで、廣済堂あかつきと日本教科書は、消しました。タイトルについて、東京書籍はアイコンが分かりにくい部分ありました。それ以外は、何らかの表現でどういうことを学ぶということが書かれているか、そういう意味では、東京書籍よりも光村図書の方がいいと思いました。

それから、題材末の問いかけとまとめ方について、光村図書は少し多いので、これをどう評価するか。前回もそうですが、東京書籍は「考えよう」と「自分を見つめよう」、その二つに分けています。前回は二つとも「考えよう」だったと思います。あえて、分けて意味があるのか、ほかの教科書会社は、内容で「考えよう」で、一問が内容の登場人物についての考え。そして、それを踏まえた上で、自分がどう考えるのかが、もう一問です。「考えよう」と「自分を見つめよう」に分けたから、駄目ということではないとは思います。それに対して、光村図書は「考えよう」が二つで「つなげよう」。そのほかに、「見方を変えて」、場合によっては、「つなげよう」の後に「発展」というような形で、その題材で学習した後に、「見方を変えよう」というのは、ほか立場になっての演技をしてみようとか、そういう働きかけが各学年であります。そういうところが特徴的で、かえって教師がどう使うかで、力量を発揮できる、そういう意味で評価をしたところです。

それから、道徳の学習の評価については、前回よりはすっきりしたと思っています。学び方については数値化してもいいということで見ると、ほとんどがいいと思いました。気になったのは、廣済堂あかつきと、日本教科書です。特に日本教科書は、道徳の内容項目ごとに４段階で置かれています。廣済堂あかつきは、４段階ですが、心に残ったかどうかということなので、トーンは低くなっています。道徳性を項目ごとにチェックするというのは、道徳の評価の方向として、そういう捉え方ではないので、廣済堂あかつきと日本教科書は、方向性が違うと思いました。光村図書が一番で東京書籍が二番になりました。

○丸山委員

道徳について、どの教材も、工夫して作られていると思います。光村図書と東京書籍が、無難な感じがします。先ほど森井委員もおっしゃっていましたけれども、教師の指導力みたいなものが、道徳では重要になってきますし、価値観の押しつけみたいにならないようにしてもらいたいというのがあります。光村図書と東京書籍においては、分かりやすく文章が丁寧に選ばれている印象です。現在のコロナ禍での自粛警察のような、みんながマナーを守っているのに、それに沿

えないのはいけないことという、そういう危険をはらんでいます。道徳教育にも、同じようなことが起こるのではないかと思いますので、起きないように、先生たちには教材研究と指導力というのが求められると思います。

○山口委員

そもそも道徳の授業の目的は、長文読解ではありません。小学校の教科書採択のときにも挙がっていましたが、文章を読むことに授業時間の多くを費やすことになるのなら、それは本末転倒だと考えましたので、あまりに文章量が多いものや、使用しているフォームとレイアウトが見づらいもの、読んでいて読解力を要するような、要点がつかみにくいものは、まず除外しました。それと、皆さんのお話にもありますように、道徳という科目が正しい答えがあって、こうあるべきというように導いていく色合いが強いもの、こちらも除外しました。授業も教科書も読解に頼るのではなく、映像資料なども積極的に使って話し合ったりすることに時間を使えるように、また、子どもたちが自分の感情をしっかりと味わい、周りの人たちとの関わりの中から気づきや学びを得られる授業にするにはどうしたらいいかという視点で選びました。

私は、一番が光村図書です。これは、図やイラストが多く、文章量もコンパクトにまとまっています。調査部会から、イラストが多過ぎるのではという指摘もありましたが、先ほど申し上げたように、長文読解、文章を読むことが目的ではありませんので、ここは、プラスの点で考えています。マイクロプラスチック問題、ＳＤＧｓ、ＳＮＳでの情報の発信など、今日的な題材を多く扱っていて、生徒の日常とマッチしやすいのも光村図書だと思いました。あと、振り返り用のノートが光村図書にはついていませんでした。これがマイナスポイントであるという指摘もありましたが、そもそも道徳は、紙に答えを書かせて振り返るものではないと思いますので、先生方が適宜ノートでも紙でもタブレットでも、その指導や、子どもたちの様子に合わせて選べる裁量があるという点では、付属のノートでやる必要はないと思っています。

あとは、皆さんがお話しされたのと同じような印象ですので、一番が光村図書、二番目に挙げるとしたら東京書籍です。東京書籍で皆さんとかぶっていないところですと、教科書内に書き込みの欄が多いので、これは自分の心の中に深く潜っていくためのツールと私は捉えました。また、巻末に「ホワイトボード」や「心情円」、自分の心を表出すような道具もついていまして、これは自分の心をアウトプットするためのツールと捉えました。自分の心に深く潜るということとそれを外に出していくこと、この二つが明確に示されている点で、東京書籍もいいと思いました。私は、光村図書と東京書籍を推薦いたします。

○古川教育長

ありがとうございました。発行者７者については、教科用図書審議委員会から、全ての教科書が学習指導要領に基づき、正確かつ公正であるという報告がありました。

特に私は、学習指導要領の中で、小学校の学習指導要領と中学校の学習指導要領の違いはどこにあるのかと見ました。そうすると、違いは広い視野から多面的・多角的に考える。それから、

問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を目標にしている。その観点で、二つ選びました。

まず、第一には、東京書籍「新訂　新しい道徳」が良いと思いました。目次が分かりやすいです。いじめに関するもの、「いじめのない世界へ」ということで強調されています。いじめの問題に対応した表現というのは、教材が直接扱う教材、間接的に扱う教材、段階を踏んで効果的だと思います。それから、巻頭にも、「道徳の授業はこんな時間に」とあります。これは、話し合いについての説明になっています。考える道徳、議論する道徳を進めようとしているのが伝わってきました。また、話し合いの約束を確認してあります。それも大切なことだと思いました。教材の長さが適切で、考える時間や議論する時間を確保することができるようになっています。先ほど、発問の問題が出たのですが、私は、教材に関する発問と自ら振り返る発問と、１問ずつになっているので、この程度でいいと思っています。また、巻末についてる心情円、道徳の授業で良く使います。授業のときの自分の心の変化を確認できる、すごく効果的な教具でいいと思いました。また、「自分の学びを振り返ろう」は、簡単に書くことができるので、そんなに時間がかからずに書けると思います。

次には、光村図書出版の「中学道徳」がいいと思います。光村図書も、目次が分かりやすいです。それから、年間を三つのシーズンに分けて教材が配列されています。写真やイラストによる視覚的に理解しやすいような工夫がされています。しかし、逆に言うと、写真やイラストが少し多過ぎるような気もします。関心がいってしまい、考える妨げになるのではないかということが少し気になりました。中には、教材が少し長いものがあるので、考える時間や議論する時間を確保するのに苦労すると思いました。また、発問も３問あって、３問使うのか、その中から選んで使うのか、それが教師に求められてくるわけですが、それも考えなければいけません。ただ、巻末の付録に、小学校の道徳で学習した「はしの上のおおかみ」「泣いた赤鬼」とか「手品師」が載っています。小学校のときを思い出しながら、小学校のときはこう考えたけれども、中学生になって自分はこう考えるということをできるのは、すごくいいと思いました。また、教材のタイトルの下に二次元コードがついていて、朗読や資料を提示できるようになっています。上手に活用すると、学びが深まると思いました。

東京書籍と光村図書出版、これは５人とも推しているということで、二つ候補に残すということで、いかがでしょうか。

○三町委員

例えば、森井委員がもう一度、両方見たいということであれば、それでいいと思います。もしまとまるのであれば、まとめてもいいとも思います。

○森井教育長職務代理者

三つの候補のうち、廣済堂あかつきは下げさせていただいて、１位を光村図書、２位を東京書籍としたいと思います。

○古川教育長

それでは、委員の皆様のご意見から、道徳につきましては、光村図書出版の「中学道徳」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

以上で、本日の協議を終了いたします。

改めて確認させていただきます。

国語は発行者名、光村図書出版、図書名「国語」、書写は発行者名、三省堂「現代の書写」、教育出版「中学書写」、光村図書出版「中学書写」、この３者、社会の地理的分野は発行者名、帝国書院「社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土」、社会の歴史的分野は東京書籍の「新しい社会　歴史」、帝国書院「社会科　中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き」、日本文教出版「中学社会　歴史的分野」の３者、社会の公民的分野は帝国書院「社会科　中学生の公民よりよい社会を目指して」、日本文教出版「中学社会　公民的分野」の２者、地図は帝国書院「中学校社会科地図」、数学は東京書籍の「新しい数学」、日本文教出版の「中学数学」の２者、理科は東京書籍の「新しい科学」、音楽（一般）は教育芸術社「中学生の音楽」、音楽の器楽合奏の方は教育出版「中学器楽　音楽のおくりもの」、美術は光村図書出版「美術」、日本文教出版「美術」の２者、保健体育は大日本図書の「中学校保健体育」、学研教育みらい「中学保健体育」の２者、技術・家庭は東京書籍「新しい技術・家庭　技術分野　未来を創る Technology」、開隆堂出版「技術・家庭　技術分野　テクノロジーに希望をのせて」の２者、技術・家庭（家庭分野）は開隆堂出版「技術・家庭　家庭分野　生活の土台　自立と共生」、英語が三省堂「NEW CROWN English Series」、教育出版「ONE WORLD English Course」、光村図書出版「Here We Go! ENGLISH COURSE の３者、そして道徳は光村図書出版の「中学道徳」でよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○古川教育長

ありがとうございます。

次回は８月２０日、本日の協議結果に基づきまして、種目ごとに候補を１者に絞り、それらを議案の原案としたいと存じます。

終わりに、次回の教育委員会は、令和２年８月２０日木曜日、午前１１時から市役所６階大会議室で開催いたします。

なお、教科用図書に関する議題については、午後１時３０分からといたします。

参集時刻は午前１０時３０分といたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会８月臨時会を閉会いたします。

午後６時２２分　閉会